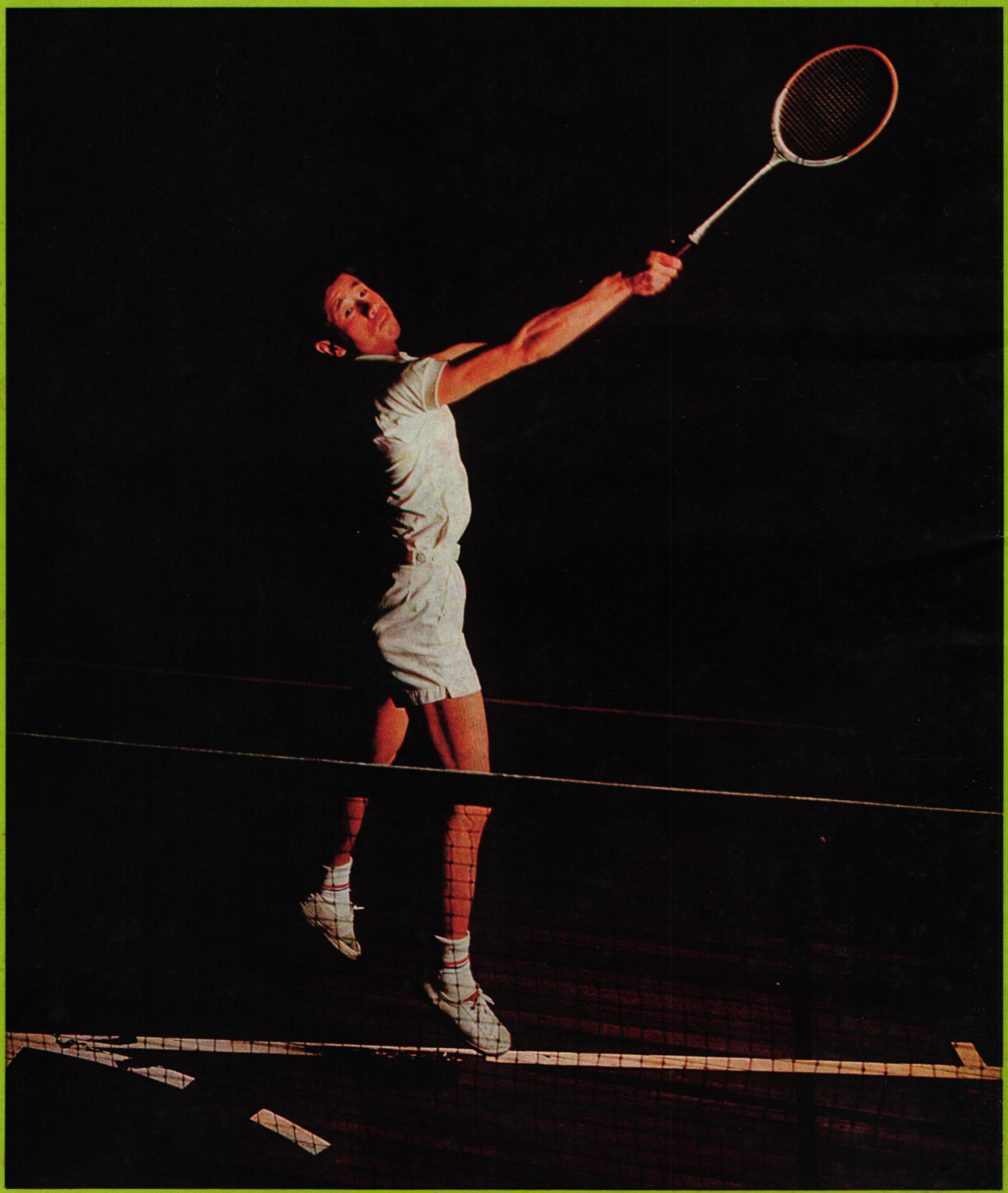
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和46年9月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.25
9 1971



No.6000 FIVE ACE DELUXE



テクニックが冴える

ガット有効面のひろがり

〈バドミントンを科学する〉ヨネヤマのラケットは、ガットの有効面積が、広く設計されている。だから、どこで打っても、シャトルを鋭くとらえる。テクニックが、冴える。狙いに、くるいがない。シャトルとラケットの、一瞬の出逢い。この一瞬を、科学した結論です。ヨネヤマは、カンと経験だけを、頼りにはしません。あくまでも科学的に、探ぐり、割りだして、ラケットを造っているのです。

No.6000ファイブエースデラックス/¥3,500(フレームのみ)

ヨネヤマラケット

今月の話題

競技会を研修の場に
――みんなよりよき指導を求めている――

競技会を単なる試合の場に終わらせず、研修の場として活用できないものだろうか。

先月号で、読売新聞の小林記者が、第一回全国中学生大会のことに触れ、その運営方法について、さまざまな具体的アイデアを提起していた。

有益で興味深い文章だったが、これを読みながら、ふと考えたのが、冒頭にあげたテーマである。

バドミントンは、戦後〝仲良しクラブ〟的な愛好者の集りから急速に発展、第一線級の選手の力が世界一流の域に達すると同時に、いわゆる底辺層の広がりも、日本スポーツ界の中では有数のものだ、といわれるようになった。

しかしながら、その現状をよく調べてみると、必ずしも内容の〝密度〟が濃いとはいえないようだ。

現に、本誌に寄せられる手紙で一番、多いのは、技術とトレーニングに対する質問、一流選手や強い学校が、なにを、どんな風に練習しているか知りたい、というたぐいである。

つまり、全国大会などに出てくるクラスの〝エリート〟は別にしても、かなりの愛好者たちは、恐らく〝暗中模索〟して、良き指導を求めている状態なのだと思う。

もちろん、こうした問題に対しては、講習会や研修会というものが存在する。しかし、日本協会にしても、現在やっている指導者研修会が年に一度、高校生の合宿も今後は、ブロック別に行なわれることになったが、中央での催しは年に一度だった。これでは、ほんのひと握りの人を相手にするだけで、極端にいえば〝二階から目薬〟ていどの効果にすぎない。

かといって、この種の催しを年に何度も、しかも大勢を集めてやるとなれば、ぼう大な経費がかかって、事実上、不可能に近い。代わりに、最も手っとり早い方法、それが、競技会の場を利用することだ。

一例が中学生全国大会である。今回の日程は三日間だったが、第一日は夕方に開会式があっただけだった。それなら、参加者の現場到着を半日早くして、あるいは、最終日、競技終了後に、全員での研修会を開くことは、大してむずかしいものではないだろう。

選手たちばかりでなく指導者の多くも、よりよい指導、新しく広い、役立つ知識を求めているのだ。せっかく集った場で先生同士、意見の交換も役に立つはずだし、知名の指導者やトップレーヤーから、直接、話が聞けるのは、参加者にとって、またとない喜びでもあるだろう。

研修ということを重く見るならば、大会の引卒者以外にも、自費で喜んで参加したい、という人もいるかもしれない。

中学の大会に限らない。可能ならば、全国大会、地方大会を問わず、いつも、こうしたことを念頭に入れて運営に当たりたいものだ。先生方の集りである全日本教職員連盟の大会では、このへんは、どうなっているのだろうか。

蛇足ながら、せっかくの第一回中学生大会に、日本協会の競技力向上、指導関係のメンバーが不在だったのは残念である。

今月号のダイジェスト

★私たちの練習法　さきごろ地方の読者から「有名校や選手が、どんなふうに練習しているか知りたい」という手紙が来た。もっともな話で、練習は、ただラケットを振ればよく、トレーニングとは、ただ走ったりバーベルに取り組んだりすればいい、というものではない。

そこで、今夏の全国高校大会に優勝した女子・四条畷学園の片岡先生、男子・正強の谷口先生に〝私たちの練習〟について公開してもらった。（P25～）

★盛夏のハイライト全国高校大会　今年のインターハイは香川県善通寺市で開かれた。参加の若人たちがなにを得たか、多彩なメスを入れ、喜びの表情をとらえた。（P2～9）

写真グラフも、この大会からが中心。なお、大会後、恒例の日韓交歓競技会が東京で開かれ日本を代表して、日本チャンピオンの奈良・正強、東京ナンバーワンの日大鶴ケ丘が出場したので、あわせて収録した。

このほか、競技会関係では全日本社会人選手権を扱ったが、実業団選手権は、紙面のつごうで次号にまわした。

★小島はハルトノになぜ勝てない　短期連載の最終回。これまでの分析をまとめるとともに日本が当面、ト杯の王座を手にするためには、なにが必要かを内藤安雄氏と小島選手に考えてもらった。（P28～29）

その他、技術関係の〝上達法〟講座も例月どおり。

伊藤先生は、単純な動作のくり返しに耐えることこそ大成への本道であると力説、佐藤先生は、試合に勝つには、自分のコンディショニングだけ一生けんめいやってもダメで「会場、気候、食物、相手の心理なども事前に研究することが必要」と説いている（P30～32）

★ほかに〝用具の話〟は今回のネットで終る。軽い読みものとしては、ユ杯の二次合宿風景（写真スケッチ）が登場する。

記録欄は紙数のつごうで全国中学生大会、関西学生選手権の二つにとどめた。

今号の強力スタッフ　表紙撮影・松井亮磨／同製作・小浜正道／写真・山田真市、毎日新聞丸山法男、毛利清志、山本洋彦、中田正彦ほか／カットとまんが秦浩ほか／加盟協会、愛読者

完全優勝

秋本・西尾で〝三冠〟

正強が王座に・

第22回全国高校選手権

大会成績一覧

◆男子団体
優勝＝奈良・正強（初）②日大山形③富山・県高岡商③香川・県高松商

◆女子団体
優勝＝大阪・四条畷学園（初）②京都・成安女子③長崎・鶴鳴女子③奈良・市一条

◆男子シングルス
優勝＝下田春樹（富山・富山商）②米山（日大山形）③土田（新潟・県三条商）③西川（奈良・正強）

◆男子ダブルス

ことば

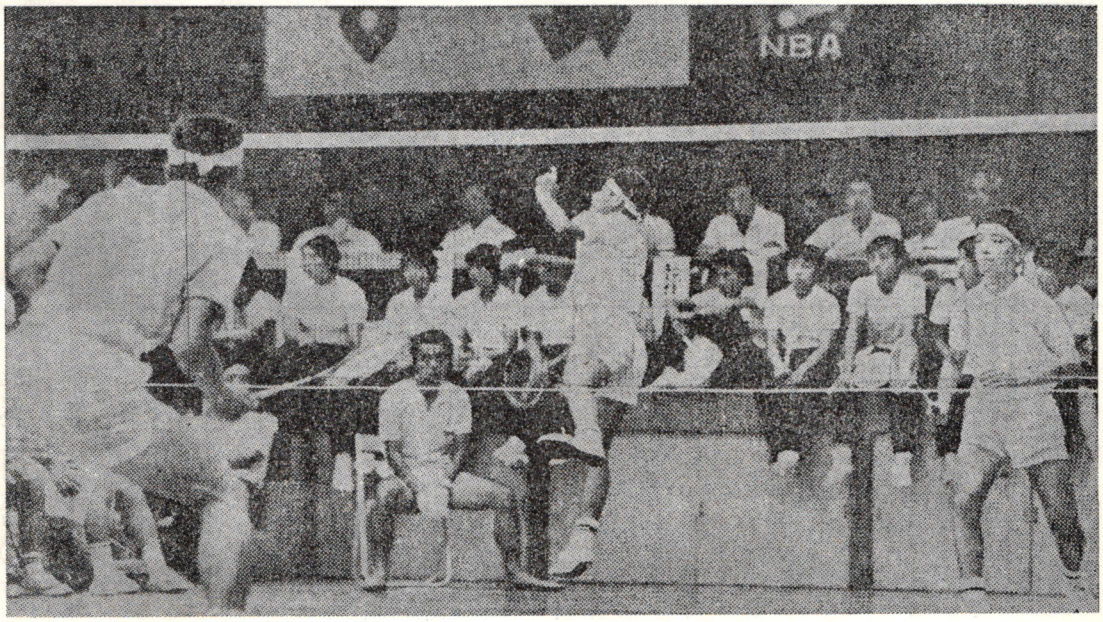
善通寺一高　岡部弥生

幾多の予選を勝ち抜かれ、栄誉あるインターハイに出場なさったバドミントン選手の皆さま、ようこそ善通寺へいらっしゃいました。

ここ善通寺は弘法大師ご誕生の地として知られていますが、静かな田園都市のこの町も今は若い力があふれております。

インターハイ。それは私たち高校生が、若いたくましい力を発揮して、日ごろの練習の花を開かせるところです。そして、全国から集った若人がお互いに友情をたしかめあうところです。

「至純・探求・躍動」この大会のスローガンをかかげ、全力をつくしてシャトルを打って下さい。私たちも、皆さまのプレーに、力いっぱいの声援を送りたいと思います。そして、この善通寺での闘志が、高校生活のすばらしい思い出となりますようお祈りして、歓迎のことばといたします。



昭和四十六年度全国高校総合体育大会のバドミントン競技選手権大会（第二十二回）は、八月一日から七日まで、役員・選手千六百名（男子四十四都府県百九校、女子四十六都道府県百三校代表）が参加して行なわれた。

開催地はバドミントン界の名門校を持つ香川県善通寺市。〝至純・探求・躍動〟という、高校生にふさわしいスローガンのもと、市立東中など四会場のコートで熱戦が展開された。

予想どおり男子は北陸と奈良、山形、地元が、女子は関西勢が強味を発揮した。

団体戦の男子は前年三位の奈良・正強が圧倒的な強さで進撃し、決勝では日大山形を押えて初優勝。しかし同シングルスでは北陸の名門・富山商の下田選手が日大山形の米山を破り、初の王座についた。米山はダブルスで中島と組んで優勝、一矢むくいた。

一方、女子は昨秋の東南アジア遠征代表の秋本、西尾を持つ大阪・四条畷学園が文句なしにライバル京都・平安女子に勝ちやはり初優勝した。長崎・鶴鳴女がベスト4に勝ち残った健闘ぶりも讃えられる。シングルスは秋本、ダブルスは秋本・西尾がとり、四条畷は完全優勝した。

四条畷（大阪）が

団体戦も初、女子単・秋本・複は

・男子団体戦・奈良

優勝＝米山正和・中島良治（日大山形）②中原・木下（香川・県高松商）③西川・佐野（奈良・正強）③大場・秋葉（山形・県山形工）

◆女子シングルス

優勝＝秋本八代美（大阪・四条畷学）②佐伯（奈良・市一条）③古谷（同）③西尾（大阪・四条畷学）

◆女子ダブルス

優勝＝西尾真理子・秋本八代美（大阪・四条畷学）②佐伯・古谷（奈良・市一条）③白玖・大矢根（香川・県善通寺一）③矢口・本間（山形・県新庄南）

総体、インターハイとは

総体というのは全国高等学校総合体育大会の略称である。

インターハイ（新聞ではインタハイ、と書く）英語のインター・ハイスクール・チャンピオンシップの日本的表現。高校スポーツの全国大会を一般に、こういっている。

バドミントン競技は一九五〇年（昭和二十五年）から始まっている。最初は男女団体戦だけだったが、五五年の第六回大会から個人戦が加えられた。

高校のスポーツが盛んになるにつれ、学校教育の立場から高体連（全国高等学校体育連盟）は「各競技を、ばらばらでなく、時期と場所を統一してやれば、もっと効果が上る」と考え、六六年（青森）から〝国体高校版〟のような形に改めた。

そこで、これが〝総体〟と呼ばれるようになり、今年は四国の四県で八月一日から開かれた。

北陸勢の王座死守ならず

決勝戦 正強のオーダーずばり的中

◆男子団体戦

▼準々決勝

高松商 3―1 富山商（富山）（香川）

日大山形 3―0 岐阜東（山形）（岐阜）

正強 3―1 金沢市工（奈良）（石川）

高岡商 3―2 伊勢工（富山）（三重）

▼準決勝

日大山形 3―1 高松商

○米山 2（15―2）0 中原
中島（15―6）木下

○渋谷 2（15―9）0 栗
三浦（15―2）北谷

中島 0（9―15―15）2 中原○
○米山 2（15―15―18）1 木下

高松商は予想以上の健闘ぶりで、地元勢四校のうち、ただ一校ベスト4に進出した。単なる〝地元の利〟ではなく、実力をフルに発揮「至純」なスポーツマンシップがもたらしたがんばり、との声が強い。

双方、トップ・ペアをくり出した第一複は、山形が高い打点からダイナミックにスマッシュを連打、高松ペアには準々のときの冴えが見られずストレート負け。第二複も山形の速攻を防ぎ切れず一方的内容で失った。

剣ケ峰に立った高松は、第一単に、ベスト4進出の立て役者中原を当て、山形を両サイドに大きくゆさぶってミスを誘う心理的な戦法で一矢を報いた。

第二単、高松は今大会随一のテクニシャン木下×山形のエース米山。第一ゲームは高松が10―13から13オールのセッティングに持ち込み、2―0とリードしたが2―5と逆転された。結局、テクニックとヘッドワークの〝防禦型〟高松が、パワーとスタミナの〝攻撃型〟山形に惜敗した一戦だった。（新井 威）

正強 3―0 高岡商

○西川 2（15―15―17）1 畠
佐野（15―17―10）内生蔵

○中井 2（15―15―10）0 米山
南田（15―7―15）三ノ宮

○西川 2（15―15―9）0 畠
佐野（15―8―3）藤木

十八回大会から連続四年、北陸路にある優勝杯を死守しようという名門・高岡商（第十九回優勝）と、前年三位の新鋭・正強の対戦。

複の二試合は、正強が体格にものをいわせ、緩急自在な試合運びで圧倒した。高岡には北陸勢特有の粘っこさも見られず、二試合ともフル・ゲームにしながら落とした。

余勢をかった正強は、第一単で主力の西川がクロス攻撃を主体によく攻め、ストレート勝ちで初の決勝進出を決めた。

（田中章喜）

▼決勝

正強 3―0 日大山形

○中井 2（15―5―6）0 渋谷
南田（15―6）三浦

○西川 2（15―10―8）0 米山
佐野（15―8）中島

○中井 2（15―8―9）0 渋谷

決勝戦で初めて、ダブルスのオーダーを変えた正強・谷口監督の作戦が、ずばり適中した。もちろん、山形もかなり考えたはずだが、結果的には、このために両校とも第一ダブルスを二番目に下げての対戦となった。

だが、必勝の思いで、肩に力がこもる山形に対し、奈良は全員、静かなる闘志で迎え撃った

のが成功、奈良は1ゲームも許さず複二試合を手にした。

そして、単のトップに起用された二年生中井が、長身からの強打で山形・渋谷を圧倒し、3―0で奈良が初優勝を飾った。（福山）

成安女三年連続の二位

2時間45分の熱戦（準決勝）で力使いはたす

◆女子団体戦

▼準々決勝

四条畷学 3―0 平 商（大阪）（福島）

鶴鳴女 3―2 高松女商（長崎）（香川）

市一条 3―2 新庄南（奈良）（山形）

成安女 3―0 善通寺一（京都）（香川）

▼準決勝

四条畷学 3―0 鶴鳴女

○秋本八 2（15―1）0 小浜
西尾 2（15―0）0 川本

○秋本幸 2（15―5）0 関
徳田 2（15―6）0 上山

○西尾 2（11―5）0 小浜
11―2

予想通り四条畷と、第一シード真岡女を破り準決進出を決めた鶴鳴女との対戦。両チームは正攻法のオーダーで臨んだが力で四条畷が上。複は二つとも四条畷が一方的に攻めて相手の反撃を許さなかった。続く単の第一試合も、四条畷のエース西尾のワンサイドに終ったが、鶴鳴女には、長崎国体強化のなごりが随所に見られるプレーもあった。（K・M）

成安女 3―2 市一条

○谷 2（15―3）0 古谷
尼崎 2（15―4）0 佐伯

○牧井 2（15―7）0 焼田
上野 2（17―15）0 宮田

谷 0（2―5）2 古谷○
牧野 0（3―4）2 佐伯○
尼崎 2（11―11）0 三浦
2―1111

2時間45分の熱戦のすえ、成安が決勝へ進んだ。複で2点先取したあと、第一単で一条は古谷がヘッドワークよろしく相手の凡ミスをさそって一勝、佐伯もエースの実力を発揮して勝ち2―2のタイスコアとなる。

しかし第三シングルスでは成安の尼崎が、ぴちぴちした動きでよく走り、要所でうまくクロスに決定球を放ち、三浦をワンサイドに付けて前年（トータル3―2）に続いて決勝にコマを進めた。

結果的には、エース同士の対戦だった第一複がすべてを決定したといえる。（毛利清志）

▼決勝

四条畷学 3―0 成安女

○秋本八 2（15―4）0 谷
西尾 2（15―6）0 尼崎

○秋本幸 2（15―11）0 牧野
徳田 2（15―7）0 井上

○秋本八 2（11―4）0 尼崎
11―5

近畿同士、しかも中学時代からの良友、手の内はお互いに知りつくしての対戦とつった。

オーダーも正攻法で完全な四つ相撲。結果は成安なすすべなく、四条畷の一方的勝利に終わった。

成安は第二複で善戦したがやはり及ばず、四条畷、二年生秋本妹の落着いたプレーが光る。

最後のシングルスも尼崎が〝健闘〟したにとどまり、好調な秋本姉に押し切られた。（K・M）





ヘアピン

沖縄がんばれ！ 老人が連日の声援

○…沖縄から参加している選手たちを応援に連日、訪れる老人が会場で人目をひいた。

この老人は善通寺市金蔵寺町の草原久満市さん（六八）。かって沖縄の那覇市にいたことがあり、沖縄が本土に返還される来年八月には、旧友に再会するため、沖縄に行く。新聞で那覇商の選手たちがバドミントン会場へ来ていることを知り、競技の始った二日から連日、コートサイドで声援を送っている。

宿敵、14年ぶり再会

○…過去のインターハイや国体でしのぎをけずったバドミントンの仲間が、東中体育館で十四年ぶり、顔を合わせた。

三十年に善通寺一高のバドミントン代表として、第七回インターハイに単複優勝した津島キヌエさん（三二）と、いまなお現役で活躍、今回は横浜立野高コーチとして参加した杉田良子さん。学窓を巣立ってからも社会人や国体で対戦したことがあり、二人はつもる昔話に花を咲かせていた。

旅館が〝必勝〟の幕

○…選手だけで千三百余人が泊っている善通寺市内の旅館では、主人や従業員たちが「ぜひウチの選手に優勝してもらいたい」と大変な気の入れよう。

玄関先きに〝祈必勝〟の幕を張り出したり、会場へ冷い飲みものを運んでサービスしたり。選手たちも大感激している（四国新聞から）

最近五年間のベスト4

◆男子団体

▼17回 ①宮城工（宮城）②高岡商（富山）③富山商（富山）

▼18回 ①金沢市工（石川）②市一条（奈良）③新潟商（新潟）③高岡商

▼19回 ①高岡商②金沢市工③三条商（新潟）③日大山形（山形）

▼20回 ①金沢市工②桐生市工（群馬）③高岡商③富山商

▼21回 ①富山商②新潟商③伊勢工（三重）③正強（奈良）

◆女子団体

▼17回 ①敬愛学（秋田）②山陽女（岡山）③新潟青陵（新潟）

▼18回 ①新潟青陵②東大阪（大阪）③富田女（岐阜）③真岡女（栃木）

▼19回 ①東大阪②新潟青陵③鴎愛学③成安女（京都）

▼20回 ①東大阪②成安女③新潟青陵③真岡女

▼21回 ①真岡女②成安女③新庄南（山形）③四条畷学（大阪）

収獲、敗者審判制の実施

大会競技委員長
遠井稔男

善通寺市は、昭和二十七年の香川国体バドミントンの会場地であり、また、全国高校選手権で過去五連覇という女子の名門善通寺一高の地元である。

それだけに競技に対する市民の関心が高く、総体をよく理解し、大会のムードも非常によかった。

とくに、役員は少数でありながら、ポストをしっかりと押えしかも市職員百五十名の仕事っぷりは非常に気持ちよかった。

自衛隊の通信網の完備や輸送の配車、運転など、その協力ぶりにも、非のうちどころがなかった。中・高校生の補助役員の活躍も、りっぱであった。

このように、会場との連絡や役員選手の会場移動は、きわめて順調に進み、四会場に分かれた不便さを感じさせなかった。

また、例年になく、競技の審判上のトラブルが少く、大会運営は円滑に、よく行なわれ、りっぱであった。

全国高体連バドミントン専門部が自主的・自発的な参加を打ち出し、役員諸兄の積極的な協力活動はもちろんのこと、参加教師・生徒の〝敗者審判制〟を実施したこと、などは、大会の大きな進歩であった。

選手はけんめいに試合をし、それを教師と選手が真剣に審判する。ここに、お互いの信頼感が生まれ、すばらしい人間関係に発展するのではなかろうか。

バドミントンの仲間意識・連帯感・協調の精神などは、いまのバドミントン界に、なくてはならぬものでないだろうか。

また、協会の聡明なる指導があってこそ、若いバドミントンの〝芽〟が伸び、それを取り巻く指導者の前向きの姿勢が、よりいっそう高まるものである。

そこに、総体の目的である学校体育やクラブ活動の発表の場が生まれ、教育活動としての役割りを十分、発揮することができる。

そして、バドミントンの奨励に、底辺拡大に、国民の体力づくりに、選手の養成に、また、頑張り抜く、たくましい意志、気力の高揚に、根性づくりに寄与するところに、この大会の大きな教育的意義、価値があるもの、と思うのである。



優勝チーム喜びの言葉

男子
正強

女子
四条畷学園

〝みずからやる気〟が滲透

監督 谷口 章 去年はなにぶんにも新潟商高に負け、苦汁をなめましたので、北信越勢にだけは負けるなとその点だけを肝に命じて戦ったわけです。

そのためには、吉田商業戦が四時だと聞いておりましたのでそれに合わせ練習をしたりもしました。私どもにとっては、去年の体験はそれほど貴重だったわけです。

春には滝野（正強高出身）が主将をしております法大が、本校で合宿をし、そこで相手をしてもらいましたので、生徒には良い体験になったようです。

また選手には「自分達でやらなければ」ということを口をすっぱくしていっておりました。

やはり、これが選手一人ひとりに浸透したことが優勝へつながったと思っております。

監督 片岡輝明 六年計画の最終年度ということで、昨年の実績を考え合わせ、優勝できる自信はありました。とるべくしてとれたというのが実感です。

西尾、秋本は昨年の経験、またアジア大会候補になったことなどがいい自信となっている。しかし、相手をのんでしまっているという感じでした。

インターハイを前にしては第二ダブルス（秋本妹、徳田）の強化をうたい、それが結果的にはよかったと思っています。

やはり選手達の心が一つだったというのでしょうか、それがここへきてぐっと盛りあがったということです。

選手達にはバドミントンしか出来ない人間にはしたくはなかったので、常に、精神的な面を強調してきました。

精神面の強化を強調した

西川繁美（主将）練習のかいが実ってうれしいです。ダブルス、シングルスともどんなことがあっても落とさないと自分にいいきかせて戦いました。

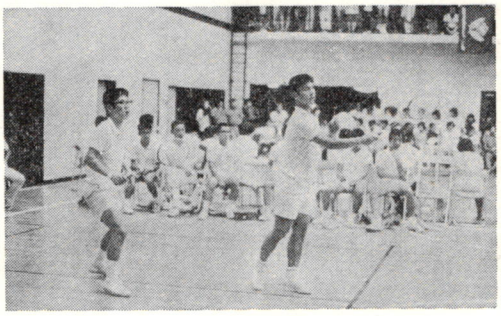
一戦必勝の気持ちで

佐野 弘（副将）一戦必勝という気持でがんばりました。自分で納得できる試合を心がけたのがよかったと思います。

斉藤雅伸（三年）三年間やってきたかいがありました。技術的にも体力的にもどこにも負けないという自信がありましたから、精神的にまいらなければやれると思っていました。

二年生として 精一杯やった

中井基夫（二年）二年生として精一杯やりました。決勝戦のダブルスは第一試合でしたので絶対勝とうと南田君とも話していました。今は本当にうれしいです。



努力すれば必ずできると思った

西尾恵美子（主将）優勝は二度目（昨年の国体優勝）ですが、期待が大きかったので肩の荷が降りてほっとしたという気持です。努力すれば必ずできると思っていました。うれしさでいっぱいです。

自分のペースでやれた

秋本八代美（三年）優勝できてほっとした気持です。平商業とのシングルスで一ゲームおとした以外は自分のペースでやれました。

ダブルスにかけだ

秋本幸子（二年）やっぱりチームワークがよかったので優勝できたのだと思います。三年生を助けるために、第二ダブルスは絶対にとらねばと思っていました。意外にうまくいったのでほっとしました、とてもうれしい。

ヘアピン

マスコットがベンチから応援

○…女子団体三回戦、福島・平商×土佐女で、平ベンチにマスコットの〝チビざる〟が登場、控え選手のひざに抱かれて愛嬌をふりまいた。

六年前、同校にバドミントンクラブが発足した年の卒業生が記念として贈ったぬいぐるみ。永井祥一監督（二九）のニックネームと、豊臣秀吉が一歩一歩のびて天下をとったいわれにちなんで名づけられた。各種大会に必ずおとも、選手たちに幸運をもたらしている。

花束を贈って 選手団を激励

○…大会開幕を前に、善通寺入りする各県選手団を、女子高校生たちが駅まで出迎え、花束を贈った。

観音寺市からわざわざかけつけた観音寺一高家庭科クラブ大方恵都子さんら二年生三人。二日がかりで作った月桂樹のリボンフラワー三十本を持ち、三十一日午前、到着した熊本の九州女学院高選手団はじめ、長崎、大阪などの選手たちを「がんばってください」と激励した。

（四国新聞から）



人間は何かを見失っているようです

スコーレ

●scholeギリシャ語●leisure(余暇)rest(休息)ease(ゆったり)の同意語school(学問)の語源—岩波哲学辞典より
●古代ギリシャ人はスコーレをすべての文化の根源と考えていた●スコーレは最も人間的な時間人間的な生活

人間も都市も砂漠化している現代

あなたにとって幸福とは、いったい何でしょう。GNP世界第2位の裕福さでしょうか。ヒッピーたちのもっている、あの自由な精神がそうでしょうか。この索漠とした現代、とにかく考えさせられます。

豊かで、しかも人間らしい生活を

スコーレとは、物質文明と精神文明の調和。つまり、豊かな人間社会のための環境づくりと豊かな人間生活のための物づくりにあります。テイジンが拡大していく、豊かでしかも人間性を尊重した世界です。

人間を愛し
人間を考え
人間に帰ろう
スコーレ

テイジン
TEIJIN 帝人株式会社

●スコーレを拡大するテイジン

天然資源開発　アフリカや南北アメリカで低硫黄石油を開発中。日本のエネルギー資源確保のため
石油化学事業　世界中の合繊生産に貢献。ポリエステルをはじめ、各種の合繊用原料の生産と輸出
合成繊維事業　豊かな生活環境、新しい生活行動パターンの創造。ファッションから産業資材まで
海外事業　人類の衣生活充実。世界10余か国へ進出。ポリエステルなどの生産技術で各国に協力
情報産業　知識社会・情報社会の拡大。ビデオ、X線、コンピューターのベースフィルムを生産
プラスチック事業　未来の生活を支えるエンジニアリング・プラスチックや汎用プラスチックの開発と生産
食品事業　健康社会の推進。理想的な食生活のための食品づくり。牛肉エキス、植物蛋白など
住宅関連事業　人間性を尊重した住宅空間、創造的な空間の建設。ハウジングからレジャー分野まで

◆男子シングルス

▼準々決勝

米山2(15—10)0竹林(日大山形)
西川2(18—13)0横山(正強)
土田2(15—5)0山本(三条商)
下田2(15—5)0中原(富山商)

▼準決勝

米山2(15—12)1西川
下田2(15—9)0米山

▼決勝

下田春樹2(15—6)0米山正和

米山は連戦で体力がダウンしており、最後にこの差が明暗を分けた。下田は入念にクリーヤーを振り、カットで泳がせ、浮いたところを攻める。米山はドリブンでバックを、得意のスライスするスマッシュでフォアを突くが優位をとれない。時間とも、多用するドリブンの戻りに足が合わず涙をのんだ。（久永公夫）

◆男子ダブルス

▼準々決勝

米山2(15—9)0下田
中島2(15—2)0梅本(富山商)
西川2(15—4)0米田
佐野2(15—3)0原(金沢市工)
中原2(15—12)0小場
木下2(15—10)0古西(高松商)(岐阜東)
大場2(17—14)0中井
秋葉2(15—5)0南田(山形工)(正強)

▼準決勝

米山2(18—15)1西川
中島2(15—13)1佐野
中原2(15—7)1秋葉
木下2(4—13)1大場

準決勝の米山・中島組は、結局、ハーフへの羽根くばりのうまさで勝機をつかんだ。第二ゲーム中盤から西川組が相手のミスに乗じてばん回、攻撃ペースに乗ったときは、正強によく勝運が傾きかけたが、第三ゲーム中ばからは再び山形の入念なペースになった。（大世古吉弘）

もう一つの準決勝は、木下のフェイント・サーブがよく決まり、高松商ペアがゲーム先取。続くゲームは山形工組が相手ミスにつけ込んで1オール。しかし、ファイナルは木下のレシーブが立ち直るとともにペースをばん回、高松商の決勝進出が決定。（東条義昭）

▼決勝

米山正和2(15—12—15)1中原敏和
中島良治(15—8—9)木下元則

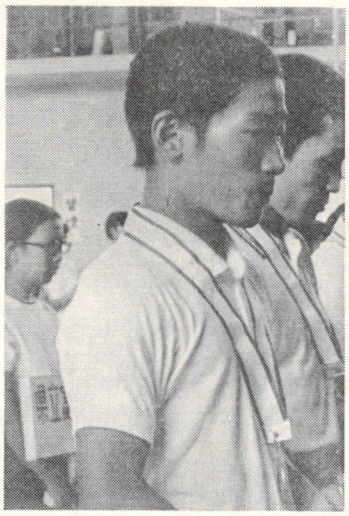
ハーフ・ボールを使ってのネット前での勝負、相手のコンビネーションを狂わしてポイントを重ねる勝負となった。

第二ゲーム、米山組はペースを変え正攻法のコーナーワークとスマッシュで楽勝。最終ゲーム6—9から勝ちを焦った中原組のレシーブ・ミスを突いて逆転した。（東条義昭）

ヒーロー

下田春樹

富山商高三年



——おめでとう。

「はい、ありがとうございます」

——自信はあった？

「カットさえ入れば、と思っていました」

——しり上りによくなってきたと思うけど。

「はい。僕は汗をかけばかくほど調子がよくなるんです」

優勝の興奮のためか、ほおがいくぶんひきつり、早口な返事が返ってくる。

汗した顔。涙の翳もない、爽やかな印象そのものだ。

富山商高シングルス三連勝。不破監督のもと、猛練習をもってなる高校である。

——身長体重は

「166センチ、60キロ」

不破監督はこの二年、続けて〝小型〟の高校チャンピオンを生み出した。この日、決勝戦にコーチ役を務めた尾崎（176）をはじめ近年、インターハイの勝者に〝大型〟が輩出し、あのハードスケジュールを勝ち進むには〝小型〟の選手では無理だともいわれていた。それをものの見事に破ってしまった。

——優勝できたのは

「自分で、よく走ったことだと思います」

つまり、猛練習でつちかわれたスタミナと根性をもってすれば、体の大きさなど関係ないというわけだ。

下田君のプレーはカットを使い、得意のネットに誘い、そこから勝機を見出すというプレーだが、自分の課題を

「スマッシュ力をつけたい。できればそれも角度あるものにしたい」

——どんなプレヤーに？

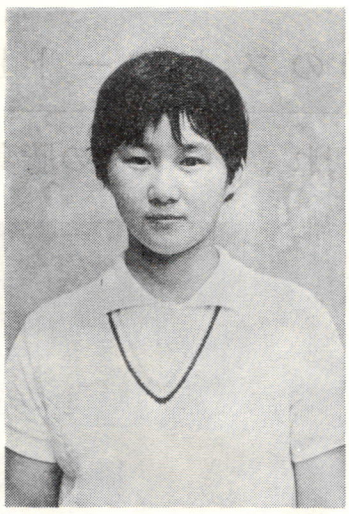
「小島選手のような小さいけれど、強い選手に」と明快。

どうも下田君、優勝するまで進学か、就職かと自分で迷っていたようである。最後に

「ここまできたら、大学でやります」ときっぱりいい、一瞬顔をこわばらせたのが印象的だった。

（久永公夫）

ヒロイン



秋本八代美

四条畷学園高三年

ライバル佐伯を破り、秋本がなかば当然のように優勝した。落ちつきはらってはいたが、秋本本人は苦しかったに違いない。アジア大会候補に選ばれたときから、この日が約束されていたといってもよいのだから。

「勝たなくてはいけないと自分にいいきかせて戦いました」

全く、今大会の秋本は安定していた。

「シングルスは危いと思ったことはありませんでした」ともいう。

決勝戦は楽勝した。

「佐伯さんが、西尾さんとの準決勝で疲れていましたから」

佐伯はダブルスの準決勝でも西尾・秋本組と対戦し「二人の総合力で勝ったようなものです」と片岡監督がいうのもうなづける。

――だからこそ優勝の実感を

「体力が大切だなあ…と思いました」

――ライバルは

「佐伯さんとパートナーの西尾さんです」とファイトをむき出しにする。事実、この三人は今大会でも傑出していたし、三人にはなにか因縁めいたものがあるようでもある。

――自分の性格は

「気が短いんです」

片岡監督は西尾と秋本を「陽と陰」だという。秋本は陰である。秋本を意識的にどやすと、本人はそれをよく知っていて頭をもたげてくるという。「くそ」というやつだろう。

――趣味は

「花が好き。五月（さつき）を植えたりするのが好きです」

やはり、高校三年の普通の女の子なのだろう。

（久永公夫）

★　★　★

★　★　★

◆女子シングルス

▼準々決勝

秋本八（四条畷）2（1111―3 0―11）0高松女商国

古谷（市一条）2（1111―6 7―3）0森田（富田女）

佐伯（市一条）2（1111―3 7―0）0矢口（新庄南）

西尾（四条畷）2（1111―4 5―0）0谷（成安女）

▼準決勝

秋本 2（1111―7 6―0）0古谷

佐伯 2（1111―7 5―0）0西尾

古谷がストレートにタマをつないだのに対し、秋本はクロスを主体に、スピードに変化をつけて多彩な攻撃、8―6からポイントを連取して先行。第二ゲームではクロスがさらによく決まり10―1。勝負を決めた。

（新井威）

西尾×佐伯は、無欲？の佐伯が焦った西尾を気力で圧倒した。西尾には疲れが目立ち、持前の力が発揮されなかったきらいがある。佐伯はスマッシュを要所に決めて完全に主導権を握っていた。

（永井祥一）

▼決勝

秋本八代美 2（1111―4 2―0）0佐伯智子

ひと口にいって秋本の体力勝ち。佐伯はスタートから前の試合の疲れが見えて終始、押されぎみだった。しかし、最後まで勝負を投げなかった佐伯、相手をきびしいまでに振り切った秋本の態度とも、立派であった。

◆女子ダブルス

▼準々決勝

西尾 秋本八（四条畷）2（15―4 15―3）0長尾 横田（普通寺一）

白玖 大矢根（普通寺一）2（15―10 15―6）0千葉 宮内（平商）

矢口 本間（新庄南）2（15―11 15―4）0秋本幸 徳田（四条畷）

佐伯 古谷（市一条）2（15―2 15―3）0岡田 山口（高松女商）

▼準決勝

西尾 秋本八 2（15―10 15―2）1白玖 大矢根

佐伯 古谷 2（15―7 15―0）0矢口 本間

準決勝の西尾組は最初、普通寺ペアの配球にとまどい、ミスが多かった。しかし第二ゲームにはいると立直り、逆に普通寺側のミスが目立つ。ドロップでチャンスを作る攻め合いは正確さと返球の質で四条畷にブがあった。ファイナルは中盤から秋本のドリブン、スマッシュがボディに決まりを出し、よく振り切った。

（本郷節生）

もう一つの対戦は市一条ペアのペースで簡単に決まった。一条は新庄組の両サイドのディフェンスに甘さがあるとみて、スマッシュとドライブでアタックし。前衛がラッシュしてセンターへ決めるリズミカルな速攻。最後まで波に乗った。

（新井　威）

▼決勝

西尾理子、秋本八代美 2（15―11 15―5）0佐伯智子 古谷成代

ていねいにラリーを続け勝機を待ちながらの展開。前半は佐伯組のハーフ、後半は西尾組の攻めと粘りがきいて11オールから西尾組がゲームを先取。第二ゲームも1ポイントを大切にする攻防のうちに西尾組がじりじり押し切った。

（小片千恵子）

スポーツ 日韓高校

一の貫録示す

0のストレート勝ち—

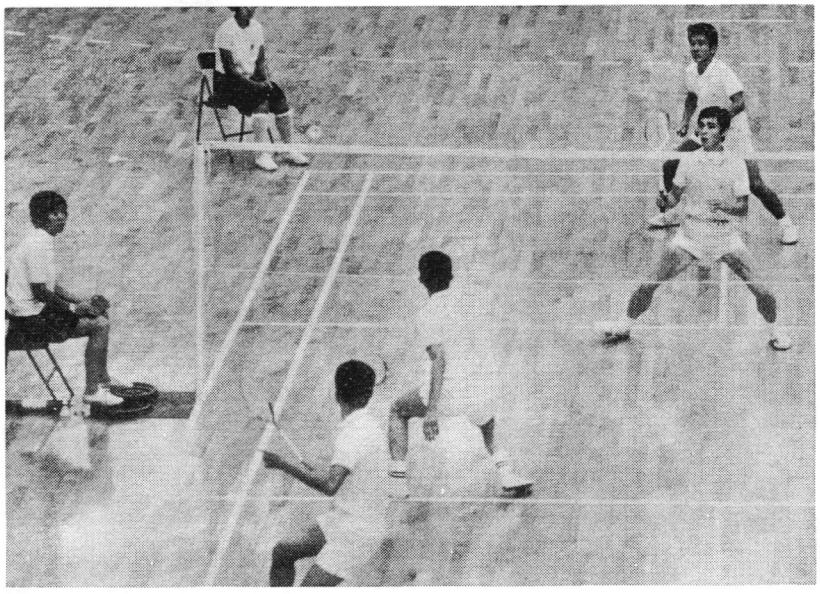
切れ、ダブルスの勝負あずかり

七一年度の日本×韓国高校スポーツ交歓競技会は、八月二十二、二十四日の両日、東京・駒沢運動公園を中心とする各会場で行なわれた。

この大会は正式には四十三年から始まり、一年おき、ソウルと東京で交互に開くことになっており、競技は陸上、サッカー、バレー（男女）バスケット（男女）ハンドボール、軟庭、バドミントン、卓球（男女）庭球（男女）の九つ。

出場者は両国ともに全国高校選手権の優勝者（チーム）のほか、開催地の代表が参加することになっている。

バドミントンは駒沢屋内競技場で行なわれ、第一日は東京代表の日大鶴ケ丘高が韓国代表と対戦した。残念なことに、他の競技との会場使用の関係で、時間を制限されたため、ダブルスが二試合とも1ゲーム・オールで打ち切りとなったが、シングルスで後藤が勝って1—0の勝利。



韓国（李、曹組）×日大鶴ケ丘（後藤、遠藤組）の熱戦

第二日はインターハイの優勝校・奈良正強が出場。シングルスで西川がゲームを許しただけで、ダブルスはともにストレート勝ち、3—0の完勝を飾った。日本の高校優勝チームでほかに勝ったのは陸上とバレー、バスケット、庭球の男子だけであり、バドの強さが光った。

◆第一日（8月22日、室温31度、観衆五百人）

日本1（単1—0 1—0 複時間切れ）0韓国

△後藤 遠藤 1（1018—1516）1 曹永鈺 李先谷

△王坪 井 1（1315—1511）1 金完善 鄭応国

○後藤 藤 2（1515—7 4）0 曹永鈺

◆第二日（8月24日、室温27・5度、観衆三百人）

日本3（単1—0 1—0 複2—0）0韓国

○西川 佐野 2（1515—3 5）0 金完善 鄭応国

○南井 田中 2（1515—8 8）0 李先谷 曹永鈺

○西川 2（15 15—10 2—15 8—1）1 鄭応国

ヘアピン

〝時間制限〟は頭痛のタネ、予定消化できず

今年の競技会は、どういう都合か、球技関係が〝駒沢屋内球技場〟に集中した。

このため、この会場での種目は、きびしい時間制限つき。具体的にいうと、持ち時間が一時間半ということになっており、それもコートづくりなど、準備と片付けをふくめての話。

バスケットのように、競技時間が決まっているものは、それでも納得できるが、バドミントンは、やってみなければわからない。

案の定、時間をオーバーしても予定五試合のうち三試合しかできず、第一戦の日大鶴ケ丘高のときは、それもダブルスを引き分けに終わらせるありさま。

せっかくの大会なら、運営方法をもう少し考慮してほしかった。体協さんへの苦言。

日韓交歓はペナント交換？ もっと友好ムードを

試合後「バド界」のため、韓国チーム監督にインタービュー

日本 正強（奈良）

—韓国代表に3—

韓国勢、基本技にあと一歩

日大鶴ケ丘（東京）は時間

韓国チームの対戦相手は、第一日目が東京代表日大鶴ケ丘高第二日目が全国高校優勝チームの奈良正強であった。

第一日目の第一ダブルス、曹李組対後藤・遠藤組、第二ダブルスの金・鄭組対坪井・王組はお互いにややかたさがみられ、ゲームオールの引き分け（時間の都合上）であった。

第二日目の対奈良正強高戦では、金・鄭組対西川・佐野組が、曹・李組対南田・中井組がそれぞれ対戦し、いずれも2—0で奈良正強高が勝った。

シングルスは各対戦とも一試合でどちらも日本が勝った。

韓国の選手は、だれもが昨年より技術的にすぐれているようだが、まだ基本的技能の習得に難点があるようだ。

例えば、サービス一つをとってみても、サーブするときの構えや、スタンス、サーブするタイミング、ショート・サービス、ドリブン・サービス、ロング・サービスを打つときのモーションなどに、充分、研究されたという印象がうすい。

バドミントンにおけるサービスの重要性を考えれば、もっと冷静さ慎重さが欲しい。

体力的には、日本代表選手よりまさっているのだから、用具・施設の充実に力を注ぐと同時に、バドミントンの基本にも力を入れて欲しいものだ。

大会競技委員長
岡村英男
（日本協会常務理事）

》《

韓国バドミントン見てある記

日大鶴ケ丘高教諭
前田耕作

八月十四日、韓国の玄関港釜山に上陸した私達、訪韓団一行は約一週間の日程で、釜山・慶州・大邱・大田・京城の各地を貸切りバスで走り廻った。

街の中央にある釜山体育館で上陸最初の対戦、かなりの数の女子高生の応援が目立つ。

男子選手は、みな高校生のように力一杯のスマッシュを主体としてストレートで攻めまくる。技より力の攻め一辺倒、全力投球で最初から最後まで押しまくる村山投手のようである。

しかしコントロールがすこぶる悪いのが球にきず。ネットにひっかけたり、コート外に出したりしての自滅が多い。だからレシーブをていねいにくり返せば、必ず先方からミスをするといった試合が目立った。荒けずりで、理論的な攻めに欠けるようである。

女子は、まだ一般的に非力で特に高校生のレベルが上っていない。しかし、一本でも二本でもとると、その喜びようは格別で、応援の拍手に力がはいる。日本の選手と対戦することがとても楽しく、名誉であると感じているように受けとれた。

大邱・大田での試合も我々訪韓チームが圧倒的に勝利した。

京城は、さすがに韓国の首都近代的な諸要都を備えた国際都市の風格がある。

私達を迎えてくれた、韓国協会役員の我国バドミントンに寄せる興味と期待は特別である。

YMGA体育館での試合は私たち中年勢が総出で対戦するほどにぎやかだった。奥さん達が旦那達に是非勝たせようと、ウーマンリブさながらの声援ぶりは、せまい体育館が熱気で一杯。彼等は、会社の社長さん、映画館の経営主等、生活の余裕がうかがわれ、バドミントンを楽しむ人達はハイソサェテイに位する。朝は五時ともなれば近郊の公園に大挙して集まり、そよと吹く風、すこしも気にせず、コンクリートの地面をかけまわっての猛練習。奥さん達の用意した牛乳やゆで卵に舌つづみをうちながら……。

この青空体育館？でのトレーニングは彼等と一緒の子供達にとっても大きな自信となっているようす。小学生がお父さんに買ってもらったラケットを振りまわし、みようみまねのバックスマッシュを打ち込んでいる末恐しい光景が印象的だった。

夫婦一心同体の楽しみ

早朝から〝青空体育館〟の猛練習！

を申し入れた。昼食時というタイミングの悪さもあったが「公式、雑談的なこと一切できません」との返事。

それでも、なんとかと、昼食後、今日は暑く感じますか、宿舎、体育館のの設備等について（すばらしい、と称賛するのみ）等々、雑談からも少し質問しようと思った矢先き「ハンドボールを応援したいので」と打ち切られてしまった。

せっかく来日しても、試合も完全に出来ぬ上、選手との交流の場もあまりなく、これでは単にペナント交換会（失礼）。交歓の意義はどこに？（丈二朗）



秋山、男子単に栄冠

二度目　女子は高木が単複制す

第十四回全日本社会人選手権大会は、七月二十三日から三日間、新装なった山梨県甲府市の県体育館で行なわれた。

男子では小島、梅野尾、女子では竹中、相沢（いずれもヨネヤマ）というトップ級が欠場したが、地元の秋山真男選手に対する応援熱で、会場はぐっと盛り上った。

男子単は、この秋山が、社会人一年生の本間（愛知・トヨタ自工）を破って二度目の優勝。しかし、本間は松島と組んだ複のタイトルを手にした。

女子単は高木×湯木の決勝となり、ベテラン高木がフル・ゲームのすえ四度目の王座に。二人はダブルスでペアを組み、土井・奈良岡組をくだし、初優勝した。

◆男子シングルス

▼準決勝
本間（愛知）2（15―9、10―9）0今泉（富山）
秋山（山梨）2（15―9、7―9）0森（岐阜）

▼決勝
秋山 2（15―7、7―6）0本間

◆男子ダブルス

▼準決勝
堺、関（東京）2（15―11、11―9）0鈴木、池田（東京）
本間、松島（愛知）2（15―13、15―9）0秋山、窪田（山梨）

▼決勝
本間、松島 2（18―15、15―16、2―0）0堺、関

◆女子シングルス

▼準決勝
高木（東京）2（11―1、11―4）0味藤（神奈川）
湯木（東京）2（11―1、10―1）0本間（新潟）

▼決勝
高木 2（11―8、7―12、11―11、8―1）1湯木

◆女子ダブルス

▼準決勝
高木、湯木（東京）2（15―8、15―6）0杉田、味藤（神奈川）
土井、奈良岡（東京）2（15―15、15―5、18―15）1原、長町（兵庫）

▼決勝
高木、湯木 2（15―2、15―8）0土井、奈良岡

◆混合ダブルス

▼決勝
堺、天野（東京・岐阜）2（15―15、3―15、12―8）1落合、湯木（東京）

この大会には台湾から四十歳以上単・複のクラスに、六人の選手団が参加した。春の台湾選手権に山梨から選手が招待されて遠征しており、それに対する返礼の意味もあったし、競技会規則にも反しないので、日本協会も参加を認めた。

ところが〝中国問題〟がきびしいおりであり、ヨネヤマ所属のトップ級の選手が、そろってこの大会に姿を見せなかったため、一部の新聞に、同社が中国との商売上の関係から「台湾勢が出場する大会に、所属選手を参加させなかった」と書かれ、

NHKテレビにも報道されるなど、問題が大きくなった。

残念な話だが、小島・栂野尾はカナダ遠征で日程がおり合わず、竹中は負傷で、もともとエントリーなし。相沢はエントリー取り消しが間に合わなかったと伝えられる。真相はいずれにしても、こうしたことのため、大会が迫力を欠いたのは事実であった。

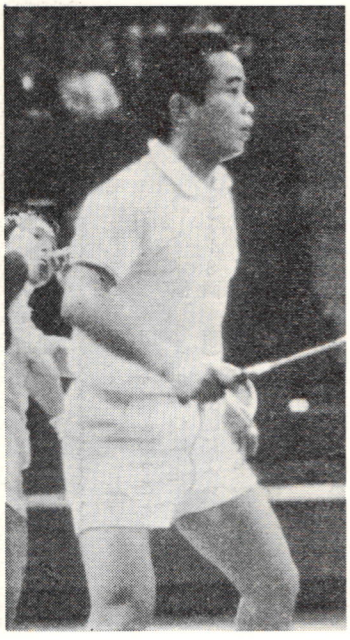
さて、男子単は、本間有利の前評判を破り、地元・秋山が楽勝した。本間は単複ともに決勝、混合も準決勝進出と、試合数が多かったせいか、決勝は精彩がなかった。第一ゲームは中盤までシーソー・ゲームが展開したが、以後、本間のネットミスが出はじめ、勝負は簡単に決まった。秋山のミスの少い際立ったプレーが印象的だった。

複は秋山・窪田組が準決で本間組に敗れた。窪田が体調をくずしていたのが惜しまれる。決勝の本間組×堺組は、第一ゲームを本間組が簡単にとり、第二ゲーム10オールのセッティング3—1と堺組リード。ファイナルに持ち込まれるかに見えたがその一瞬、堺組チャンス・ボールをミス、本間組サービス権をとり、辛くも逃げ切った。

女子単は高木に湯木とも楽に決勝に進んだ。この中で、単複ともにベストに残った味蓼とも子（旧姓高橋）が光る。前回のユ杯のレギュラー、ミセスとなり、手首の故障を治しての初の公式戦出場であった。

単の決勝は、湯木の打つ手がワンテンポずつ遅れた。第二ゲームを返してペースを取り戻したかに見えたが、ファイナルはスマッシュの切れが悪く、そこを高木にうまくレシーブされ、高木四度目の優勝が決まった。

地元の声援に応えた 秋山選手



優勝が決まると、秋山は何度も手を振って観客席に応えた。白い歯が光った。どちらかといえば、表情をくずさない秋山にしては、珍しいゼスチュアだった。

「お世話になった人、親しい友人なんかが、たくさん応援に来てくれているから…」秋山はこう説明した。

国体三連勝、という土地がらから、山梨県のバドミントン熱は相当なものだ。そして、その地元の代表的ヒーローが秋山。決勝戦のスタンドから聞える拍手は、すべて秋山がポイントしたときだけだった。

「たしかに、地元としての期待は大きいですね。だから、われわれも、それに応える努力がないと…。国体に勝った、全日本総合でも優勝している、といっても、地元の人は見ていないわけです。

実際に皆さんの目の前で優勝してみせなければ、と思いましてね」

名門中大で小島一平選手の先輩。四十年の全日本総合でシングルスに優勝、昨年も小島を相手に、決勝まで進んだ。

「今度のタイトルは、自分としては充分、自信がありました。練習試合では勝っていたし」

生家は甲府で紙製品全般を扱う紙店を営んでいる。仕事の関係上、ふだんは練習時間もとりにくい、と聞いたが、今度だけは「二カ月ほど前から週に四日、一カ月前からは、なにがなんでも優勝、とさらに本腰を入れた」そうだ。

かっては、マラソンをやるとスタートからぶっとばし、あれよあれよという間に、そのままのスピードでゴールイン、という有名なエピソードの持ち主。

「むかしにくらべたら、スタミナがなくなりました」と自分ではいうが、コート中、拾いまくって少しも疲れない、弾力性のある足腰は、まだまだ若さを感じさせた。

今春、中大を出た甲府商の後輩・岩下選手はこういった。

「ひとロにいって努力の人。今度も、決勝の前三十分もサブコートで練習していた。見えないところで努力している感じですね。ぼくらの手本です」

○…大会は県体育館の落成記念とあって、会場はどこもかしこもピカピカでまぶしいくらい。

まっさきにフロアに足を踏み入れた某選手「すごいわぁ、だけど、ころんで床に傷つけたらわたし、どうしよう」

○…おとなりは野球場、全国高校の県大会が花ざかり。ところが、試合終了後、そちらの観客がゾーッとばかりにバドミントン会場に流れ込み、ファンに早変わり、地元代表のA選手のプレーを見ようというわけで、対戦相手になる選手はクサること、クサること。

最終日などは予想どおり？の超満員となり「地方での大会だといっても、こんなにお客がはいればなあ」と、だれやら役員のうらやましげなタメ息。

○…地元・山梨は国体三連勝の土地がらとあって、テレビ、ラジオの放送が連日。「強ければ、こんなにモテるんだナ。おれたちも、がんばらなくっちゃあ」と、ある地方から来た選手のつぶやき。

社会人大会、二つの問題点

総額八億円（土地・建物とも）を費したという総合的体育館。武道場、弓道場を併設し、本館が悠悠バドミントンコート8面をとっても更に余裕があり、サブ体育館に4面、計12面をもつすばらしい体育館は正に全国大会にふさわしい会場といえる。

急に開催がきまり、準備その他に忙殺、苦労の多かったことが推察される。しかし原甲府市協会長を事務局長に県協会役員、市協会役員が献身的努力を払って見事に大会を成功に導いた。まずもって感謝の意を表したい。特に遠藤真男君の大会副委員長として、また三〇歳選手としての八面六臂の大活躍には改めて敬意を表する次第である。

猛暑の時期の大会には、最も悩まされるのは室内温度の上昇であるが、換気設備の充実した体育館であり、加えるにしのぎやすい日々であったため、館内温度が最高二十九度で、この季節の大会としては極めて恵まれた。そのためか負傷者も二人と昨年に比し減少している（その他の要因も考えられる）

この大会は主管協会には関係のないことであるが、いくつかの大きな話題をなげかけた大会であったということができる。

その一つは光華クラブ（台北市）の出場による、日中交流問題にからむ選手の出場辞退の問題である。後藤日卓会長の中国訪問帰朝により、バドミントンの日中交流に明るい見通しができ、日本協会にこの問題の研究機関が設置される矢先に「台湾の参加する大会には出場できない」と出場辞退をしたといわれるが、うわさによれば、経営者が辞退を勧奨したとある。

光華クラブ出場は協会の規約に反するものでなく、国際交流は好ましいことでもあり、特に台湾とのみ交流するとの意志が協会側にあったとは今までの事例からして考えられない。

いろいろな思惑があろうが、根本的には政治とスポーツは分離されるべきものであり、スポーツの世界には政治が介入するものでなく、スポーツに国境がないことを再認識する必要がある。

また、出場辞退問題については今後十分、アマチュア規定の研究をなさなければならない。しかし出場選手、運営当事者には何等の動揺も見られず、円滑に進行したことは幸であったといえる。

第二は第一日の試合終了時刻が大変おそくなることである。

相変らずの深夜興行

◇◇早くも現われた中国問題の波紋◇◇

大会審判長　松本弘充

今回の終了時刻は八時五十二分であった。昨年は九時であったと記憶しているが軌を一にしている。前々回は知らないが、おそらく同様であったのではなかろうか。

タイムテーブルを見ると第一日、第二日とも予定試合時間を三十分としている。今回の場合、第一日は一面当り試合数十九試合強であるから、テーブル通り三十分で終了したとしても十八時間を要し、九時開始で七時終了となる。

これはあくまで全面フルに活用しての机上の計算であり、今回の場合は八時三〇分開始、八時三〇分終了の十二時間の予定となっている。

しかし事実は第一日試合数二三一のところ棄権二二、実試合二〇九で一面あたり一七試合強であるから、計算上は九時間、即ち六時には終了するわけである。

しかし終了九時ということは実質十二時間かかったことであり、棄権なしにこの計算でいくならば終了時刻は九時三〇分になる。

前回の観戦記（バドミントン界一〇号）に「棄権時間に助けられて」の一語があることは、毎年毎年同じことがくり返され、同じことが反省されていっこうに改善されていないことを明示しているようなものである。

今回はエントリー数五一〇名（千葉五五三）でこの通りである。

日本協会の割当数に従えば七六四でベスト8を加えると八二八となり、これが全部出場はしないとしても（時期や会場等条件がそろえば増加の可能性はある）、今回はその四〇％引きの数で、しかもコート数が多くてこの結果である。

今後、充実した会場での開催は少なくなることも予想されるとき、棄権待ちの運営、全く膚に粟を覚える。

おそらく運営当事者（主管協会）は大会が終了し日時がたてば、色々な苦労は忘れるであろう。そして来る年も来る年も同じ心配、同じ苦労を主管協会に負わせる結果になるのではなかろうか。

この問題の解決は日本協会である。根本的に手直しする必要を痛感するものである。

今回は学校が休暇中であったため、昨年よりは補助役員についての苦労はやや少なかったかも知れないが、試合終了時刻がおそいということは、選手の健康管理、審判員、補助役員の健康管理の面からしても問題があり、このあたりで大英断を下す必要があると思われる。

新しい時代への自覚を——

社会人大会に思う

大会競技委員長　市嶋智三郎

第十四回全日本社会人選手権大会は、山梨県協会の協力が得られなかったら宙に浮いてしまい、多数の競技者を失望させ、日本協会の面目を失墜させる可能性の充分にあった大会でもあった。

世界卓球選手権大会を舞台にしての、中国のピンポン外交におけるあざやかな友好外交の展開、特に、アメリカ・チームの中国招聘は世界の耳目を驚かすに充分であり、その反面、中国選手のカンボジアとの試合拒否という国際政治のきびしさを見せつけられたり、ニクソン米大統領の頭越しの訪中発表、社会人大会への台湾選手の参加、一流選手の不参加や辞退等種々の問題が矢継ぎ早に輻湊しただけに、マスコミの注目に拍車をかけた大会であった。

スポーツそのものの本質は世界共通であり国境も階級もないかもしれないが、スポーツの本質とは別にそのあり方は、時代と共に推移し、一国の政治や経済に従属せざるを得ない構造をもっている現実は否定できない。

過去における内外の歴史が物語るように、スポーツは戦争に協力させられ、政治に利用され、スポーツの主体的な自主性が抑圧されてきている。

スポーツにはそれぞれの民族精神に培われてきた歴史的、伝統的、社会的な背景がありそのことがよかれあしかれ現在のスポーツ団体の態度や行動を規定している。

そしてまた、自由な競技者や、スポーツの民主化・近代化を推進し、その効用性を実行に移したいと念願する人々の思考や行動に制約が加えられ、創造的な発展がさまたげられている。

創造には人間の新らしい自覚とともに、社会変革が条件づけられている。スポーツを含む文化百般の歴史は諸外国との落差の激しい時に一大変革が行われている。この変革は上からの引き上げ、下からの押し上げ、側からの支えなくして達成できない。

創造とは、現状を突き破っていくことを意味し、そのためには、問題を明確にして、それを克服していく理論と実践を押し進めていくことが必要である。

現状を肯定し、その中に埋没している限り変革への要求は生じない。スポーツの政治性思想性を自己否定し、拒否し続けている限り、きわめて観念的な存在には危険性がある。スポーツの近代化、一大変革期に当っては、高度の政治性、思想性こそ、その主体性、自主性を発揮できるカギになるのではなかろうか。

○…台風の影響で飛行便欠航となり、列車を乗りついで会場列着一日遅れた熊本県選手団、単は棄権となったが、複で活躍五〇複優勝、四〇複準優勝、苦労のかいがあった。

○…それに引きかえ、地震のため列車遅延、会場到着が遅れたため棄権とされた選手、不可抗力を楯に是非出場させてくれとくいさがる。始めは下手にでていたが出場不可能となると新聞に投書するとか何とか強迫じみてきた。これでもバドミントンの選手か、バドミントンとは何か、もう一度勉強して下さい。所属協会のおえら方もっとしっかり選手のマナーを教えて下さい。



○…「アマチュア規定に違反するようなことがないよう充分注意して欲しい」と開会式上、注意をうけた選手達、今までに見られたように物品販売員の席に入りこんでダベっている風景みられず、一寸さびしい感じ。

○…優勝者には地元特産、貴石画の額（時価八〇〇〇円）、準優勝者にはトロフィーが奮発された。高木選手など二つ貴石画を手に入れた、その外持廻りのカップだから手が足りない。床におくやらテンヤ、ワンヤ。

観衆スズメの声……表彰式は何とかならないかね！　開会式は整然としているが、閉会は雑然としている！

○…山梨県では国体の得点原はバドミントン。そのせいで新体育館のコケラおとしにバドミントンの全国大会誘致。何百枚か何千枚か招待券をくばってPRにつとめたよし。

○…十月からオーバー・ハンドの新解釈が採用される。十月からサービスするたびにオーバー・ハンドをとられる選手が今回の大会では何人も見うけられた。注意、注意！　大鏡の前で何べんも練習してから国体に臨みなさいよ……老婆心。

○…選手はゲームに必要な用具を十分準備しておきなさい。ガットが切れてラケットが使えない、かわりをさがしてサインをしたり、控席までゲームを一時中止して走ったり、みっともない。マナーに反しますよ！　一流プレヤーのやることではないですよ！　いや草ゲームでもめったに見られませんよ。

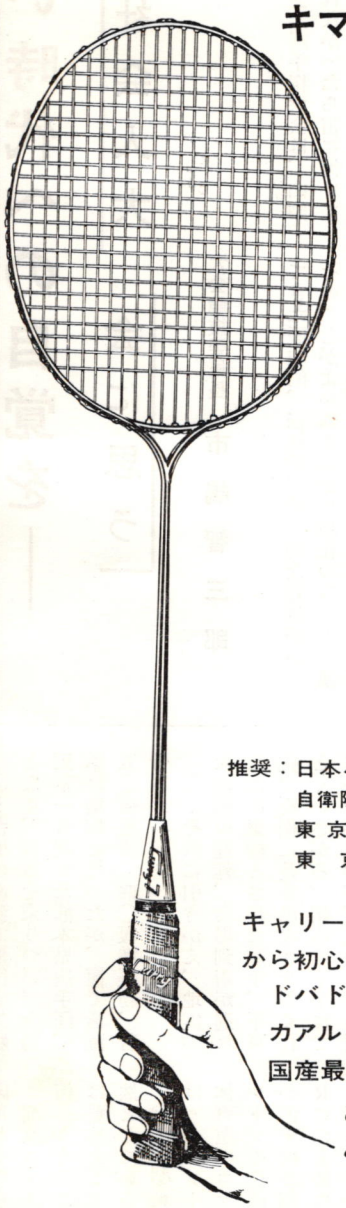
◇　◇　◇

◇　◇　◇

WHY, STRONG and LIGHT

カッコイイ銀色のラケット Carry 7

キマリーセブン



￥2,500(フレームのみ)

￥3,000
（ガット、カバー付）

保証期間　6ケ月

折損率 40本 / 10,000本

在東京実業団、高校、
中学校で人気集中!!

姉妹品(格安)

Carry Z

￥2,000（フレームのみ）
￥2,500（ガット、カバー付）

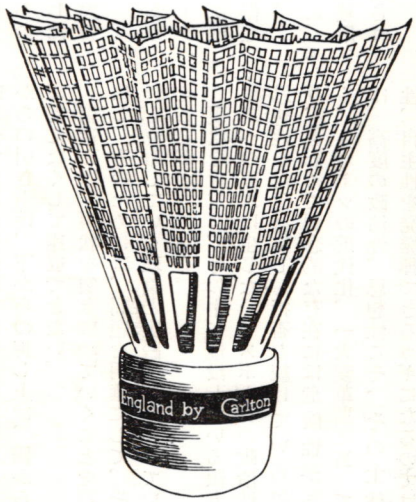
推奨：日本バドミントン協会
自衛隊バドミントン連盟
東京都実業団連盟
東京都中体連

キャリーセブンはチャンピオンから初心者まで、オールラウンドバドミントンラケット、カアルトンラケットに匹敵する国産最高級品です。

あなたも一度、使ってみませんか。

CARLTON
SHUTTLECOCKS

世界最高級カアルトンスチールラケット
3.7(スリーポイントセブン)￥5,800(フレームのみ)
3.9(スリーポイントナイン)￥4,800(フレームのみ)



日本バドミントン協会審査合格品

なぜ!!カアルトンナイロンシヤトルの売上げが増大しつづけるのか？　その秘密は!!

1.耐久力：水鳥シヤトルの約3.5倍
　　陸鳥シヤトルの約6.0倍
2.性　能：水鳥シヤトルとほぼ同じ
3.価　格：インターナショナル(試合球)
　　1個 200円
　　カアルトンクラブ(練習球)
　　1個 150円

註 カレッヂナイロンシヤトルを新らしくカアルトンクラブと変更しました。
カアルトンクラブはカレッヂと全く同一のものです。

Metro Leisure

総発売元

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5－6－4　〒101　電話833－3661(代)

若人の熱と力

全国高校選手権ハイライト

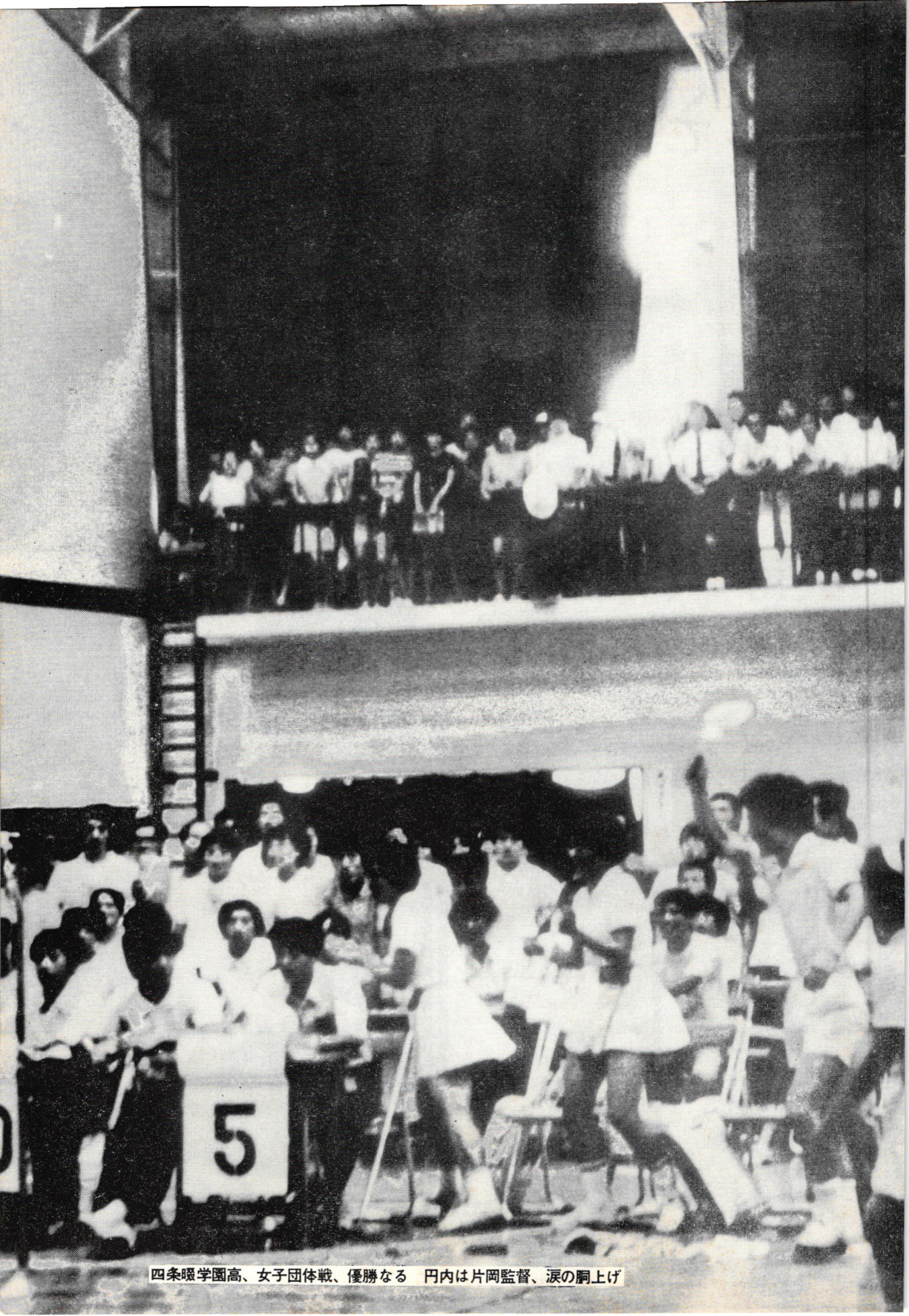


男子団体決勝、正強・中井選手

The th National Inter-Highschool Championship Tournament

（写真提供　毎日新聞、中大・丸山法男氏）


NHK



四条畷学園高、女子団体戦、優勝なる　円内は片岡監督、涙の胴上げ

の内外で



◀スポーツ・ファンの高松宮さまご夫妻もご観戦



▲開催地善通寺は弘法大師ゆかりの地



▲マスコットのクマさんもハチマキしめて



コー

◀上から男子ダブルス表彰、開会式、女子団体表彰









熱戦を知らせる速報板▼







▶名門・成安女子高も健闘

◀四条畷　秋本妹・徳田組

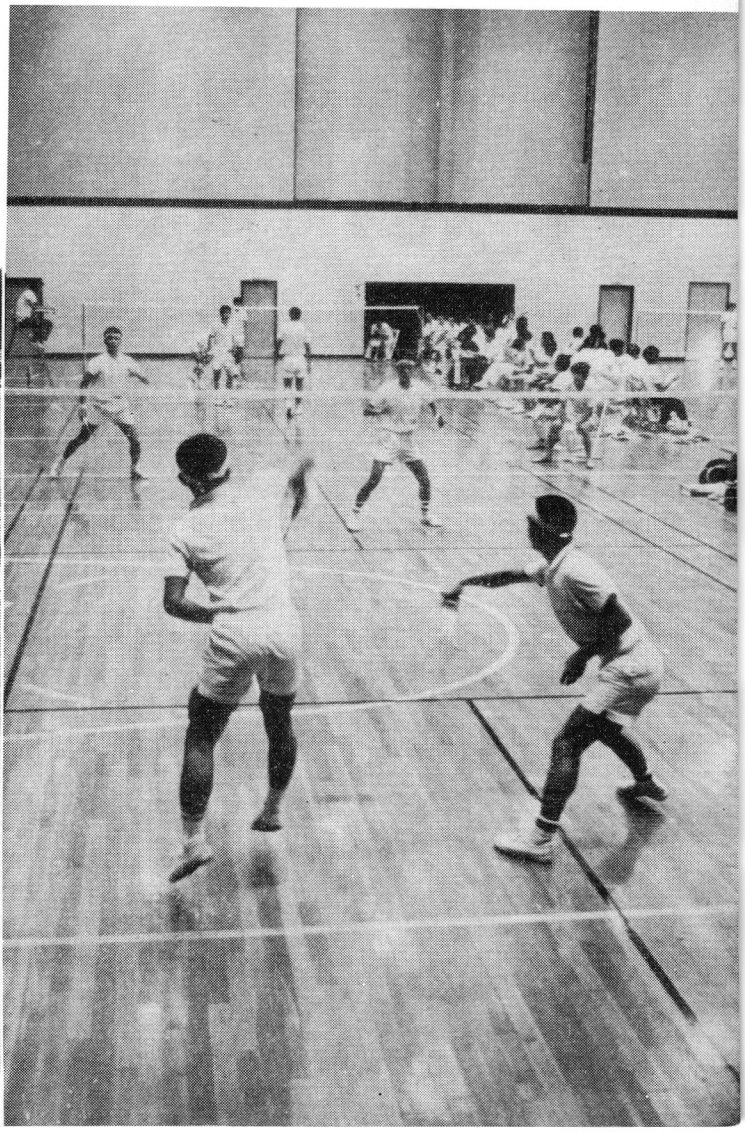


▼男子団体準決勝　日大山形×高松商

しくぶつかる



▲熱戦つづく男子団体戦の会場・四国学院大体育館



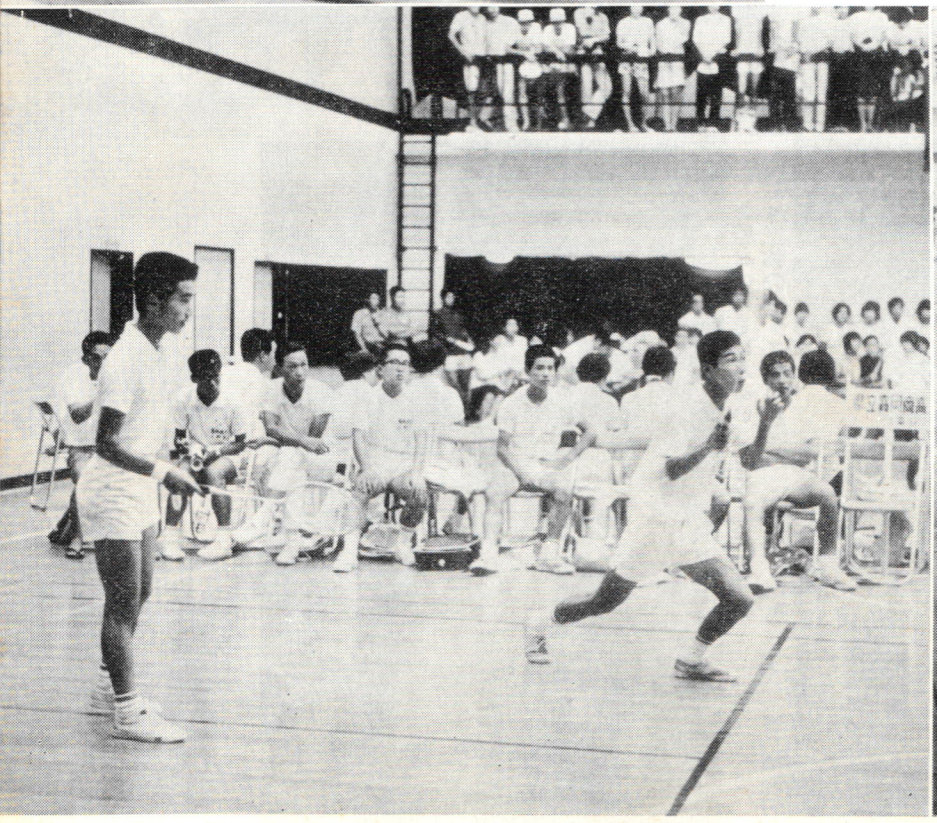
▼地元の面目　高松商・中原・木下組

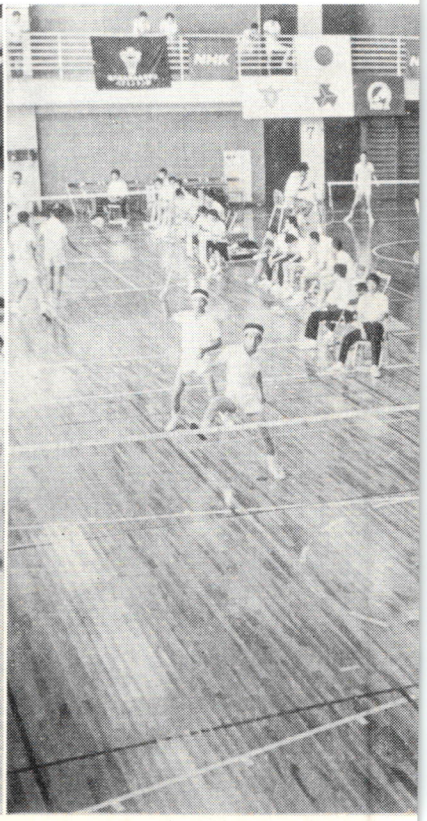




実力伯仲!!

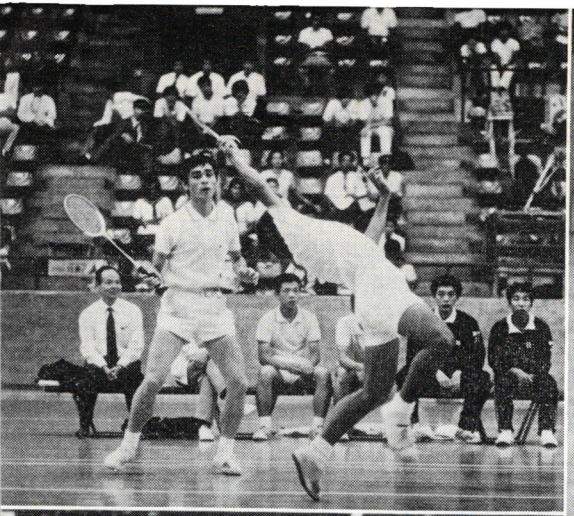
上位校激

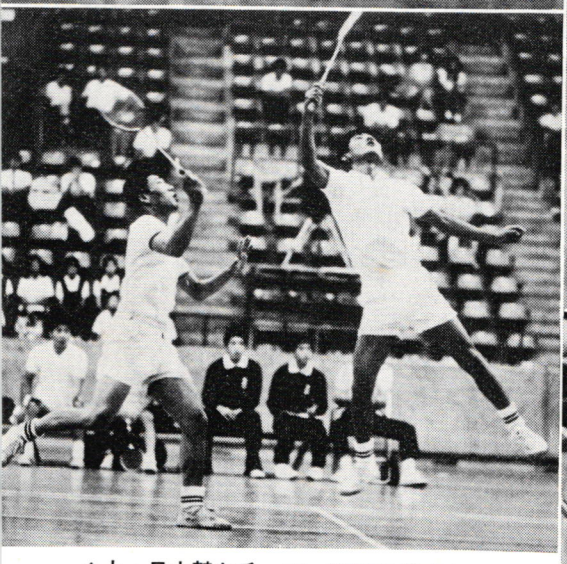




▲男子の古豪・高岡商

71年度 日韓高校スポーツ交歓意技会



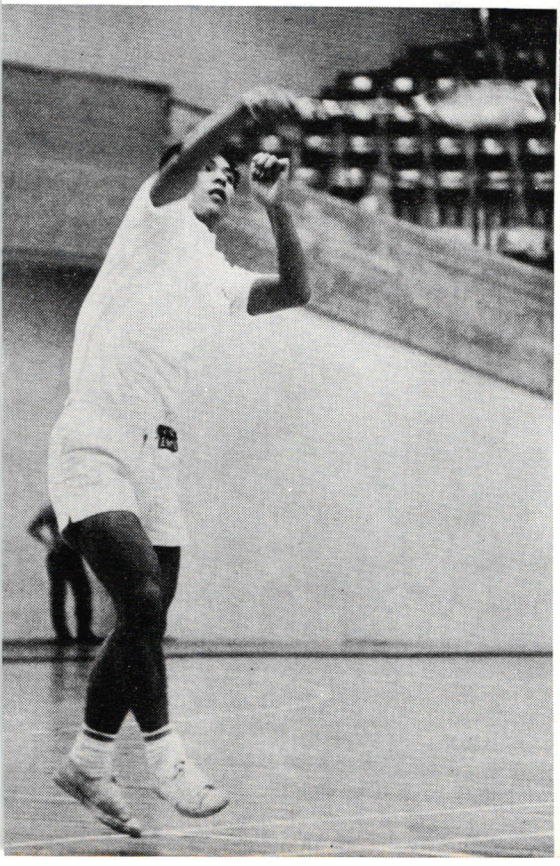


▲上・日大鶴ケ丘、下・韓国のダブルス



◀指示を与える日大鶴ケ丘の前田監督　▼韓国ベンチ







▶監督さんもけんめい（正強・谷口監督）
◀正強のエース西川選手

撮影・山田真市

特集

私たちのクラブの練習法

――全国高校選手権男女優勝チームの例

練習は、ただやりさえすればいい、というものではない。正しくやらなければ、やらぬのと同じこと、いや、それよりマイナスの結果を招くこともある。

しかし、正しい練習とはなにか、となると、これがまた〝なかなかむずかしい。

先日、読者から「有名校のトレーニングのやり方などを教えてほしい」という趣旨の投書があった。バドミントンのすべてのクラブに〝専門〟の指導者がいるとは限らない。普及途上にある地方のプレーヤーや愛好者の中には、きっと、この投書と同じように「どうしたら上達するのか」思い悩んでいる人が多いかもしれない。

そこで、このたびの全国高校選手権大会（インターハイ）で優勝をかちとった男子の奈良・正強高校、女子の大阪・四条畷学園高校を指導する先生に、どのような狙い、計画で選手づくりをやっているか、寄稿していただいた。高校生に限らず、広く参考になれば幸いである。

先決は体力、運動能力向上

――シーズンオフのトレーニング主眼に――

女子四条畷学園高
顧問　片岡輝明

バドミントン〝は足と腰〟

練習方法について述べる前にまず本校の特殊性に触れる必要がある。

他校にあまり見られない点は中学・高校の六年間、一貫した選手養成ができることである。したがって本校では目標をつねに六年計画の最高点、すなわち高三の時、インターハイに勝つことを頭においた方法で進んできた。

そこで、高校入学以来、はじめてバドミントンをする人にはさらに異った方法で計画を立ててもらう必要があろう。

しかし、中学から始める諸君には、ある程度の参考になるかもしれないので書いてみる。

よく、バドミントンは〝脚と腰〟のスポーツだといわれる。それは技術水準がほぼ似かよってくると、あとはスタミナのあるものが勝つ、という場合が多いからだ。

つまり、腕の競技ではなくて脚の競技になってしまう。

事実、インターハイのような酷暑の中、連続して行なわれる試合では、あまり技術的レベルが違わぬとき、バテた方が、あっさり負ける例が見られる。

そのために、なによりもまず脚と腰の強化を第一としたいものだ。

中学は興味づけの段階

私の計画では、中学校の三カ年は、バドミントンの興味づけの段階にしている。だから技術はもちろん、トレーニングもあまり行なわず、もっぱら楽しくバドミントンをする時期と見ている。

ただ、女子の場合は男子とちがって、中学三年ともなると、体力的にも、ずいぶん成長し他の競技などによると、世界記録を作ったり、トップ・レベルに達する選手が生まれている例を見てもわかるように、立派に、もう選手養成の時期になっているので、中学三年生の後半からは、高校生と同じ練習を始めている。

男子は体格的に見て、あまり無理なトレーニングを続けると成長に障害をおこすのではないかと思う。高校に入学以後、トレーニングを開始する方が賢明であろう。

◉トレーニング計画の一例

ここでは練習（（技術向上）とトレーニング（体力づくり）をはっきり区分する。

①季節による区分

冬季（11月～3月）オフ
夏季（4月～10月）シーズン

トレーニングは冬季の間に充分実施する。夏季は週に一日ぐらいにする。

②学年ごとによる区分

高校生は全学年、全部同じ。中学生は三年生は高校生よりやや減じ、一、二年生はほとんどやらない。

③週間による区分

毎日トレーニングをすると過労ぎみになるため、一日ごとに組み込む。月・水・金トレーニング。

④一日の区分

練習時間終了後、実施する。トレーニングが終わって、一日が終わりとする。



◉トレーニング内容の一例

（A）耐久力→筋持久力　循環系統の強化に重点をおく。

【例】サーキット・トレーニング。

異った筋肉を使用する種目を10種ぐらい組み、順次、まわっていく。

たとえば、腹筋→腕立て↑倒立→背筋→跳躍→つま先き立ち

【例】インターバル・トレーニング。

コートのラインを使って、サイドステップを数十秒行ない、休息後、ふたたびくり返す。

サーキットの場合は1セット（ひと廻り）15分程度のものを四回（4セット）ぐらい。

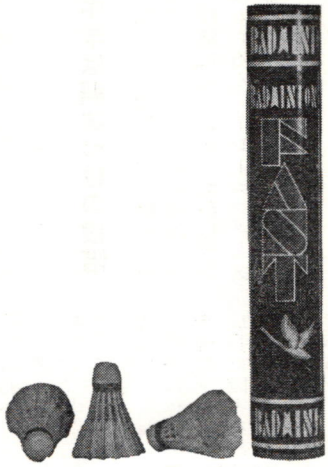
インターバルの場合は、計一時間ぐらい行なう。最初から、この通りにはいかないので、十一月下旬から十二月にかけて、目標達成のつもりで始める。

（B）敏捷（しょう）性→筋瞬発力の養成。

【例】自転車のチューブを使って腕脚の強化。なるべく重いよく、トレーニング後、練習をするクラブを見るが、巧緻性を要する練習は、筋肉疲労の見られるあとでは、効果はないと思う。

耐久力、敏捷性、巧緻性の三要素

水鳥 検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー



ファスト印シャトルコック製造発売元
有限会社 ジャワ商会
山形市六日町7-28
電話 0236（22）3994(代) 3280・0545

もの（30㌔ぐらいのもの）を数回、持ち上げたり、移動させたりする。

〝遊び〟の中で身につける

これはごく短い時間で終わること。バスケットボールやハンドボールのゲームをするのも、よいトレーニングになる。

ひとつの競技だけに専念しないで、冬季はなるべく他の競技も楽しむようにするとよい。

【C】巧緻性↓ラケットワーク。

これは年間を通じて行なわれる練習の中で達成できるが、これも単にシャトルを打つのみでなくて、バケツを置いておき、その中に入れるゲームとか、シャトルの筒の倒し合い（我が校ではこれをボーリングと称している）をしたりして、遊びの中からラケットワークをつけることをする方が、より効果的である。

また、メンタル・トレーニング（頭の体操）をするため、バレーボールやテニスを見学したりして、自分の頭の中でバドミントンに置き換えて考えることなど、大変よいことだ。

ランニングは万能効果

以上、A・B・C三つのトレーニングの簡単な例をあげたがこれだけで充分ではない。

なによりも、オールラウンドの強化はランニングである。

高校生の体力では、一日に10㌔は可能である。私の学校がこれを達成できたのは、近在する東大阪高校（過去、全国高校で二連勝しているバドミントンの名門校）が、かって連日10㌔のランニングをしていたからである。

それを見て、女子高校生でもこんなことができるのだという確信を得て始めたものである。

最初は3㌔ぐらい。だんだん距離をのばし、ついに10㌔を40分前後で、全員、走れるようになった。

いまでは、毎冬季、これは当然のことになっている。本校では連日行なっていないが、少くとも週に30㌔はランニングに時間をとっている。

このようにして、新学年を迎える春になると、トレーニングの日は週に一日に減らし、もっぱらシャトルのかため打ちを始める。

努力にまさる天才なし

毎週、日曜月はゲームを行ない、他の日は部分練習に充分時間をかける。

練習時間は午後四時から七時まで。遅くとも七時半には終わる。空腹をかかえて、これ以上やっても、効果は少ないようである。

こんなことのくり返しを数年間やれば、いつの間にか勝てるチームになっていた。これが実感である。

強い選手になるのには、まず本人の自覚が大切である。他人にしいられて、いやいややっているのでは、絶対向上しない。

やりたくない日は休むことである。その代わり、翌日は倍の意欲で取り組むべし。人間の能力には大した違いはない。努力にまさる天才はあり得ない。

全国のバドミントンを愛好する中学・高校生の皆さん、お互いにこれからも、がんばりましょう。

△ ▽ △ ▽

男子「正強」高校

顧問 谷口 章

◉年間の計画、日程等について

一般的にいえば、冬は運動能力が低下するので、ランニング（約10㌔）を主体に、バスケットボール等をやり、足腰の強化、コート内での体力増加につとめている。春頃からは運動能力が増進してくるので、フォームの完成、また技術の導入に力を入れる。

◉各学年別の扱い

奈良県では、中学校が他府県にくらべると盛んである。

中学時代に少々バドミントンを経験していても、高校に入学すると、中学時代に夢みた高校と、現実の高校生活とが、あまりにもちがいすぎるように思われる。そこで新

真似を排すのが第一歩

〝オフ〟は足腰の強化を

入生に望むことは、まず自分の目、自分の頭でものを見ることから始めてほしい、ということだ。他人のものを真似るというのではなく、自分で基礎を大切にやることではないかと思う。各種の基本打法を自分に合ったフォームで練習し、打点は身体の前で打つことを、特に気をつけさせることが大切だ（フットワークに注意すべきではないかと思う）上級生になってくると、クラブ生活も自然に身についていると思う。そこで技術を身につけることに専念する。

ダブルスの面では、絶対にシャトルをあげないことに気をつけて練習するように心掛けている。

シングルスはコースを考え、試合に結びつく練習をやり、ともに時間は一時間程度、行なっている。

しかし、上級生は精神的な面で気をつけることが大切ではないかと思う。ともにトレーニングでは一定の限界を越えれば、効果よりも、むしろ身体的、精神的障害が生ずることになる。

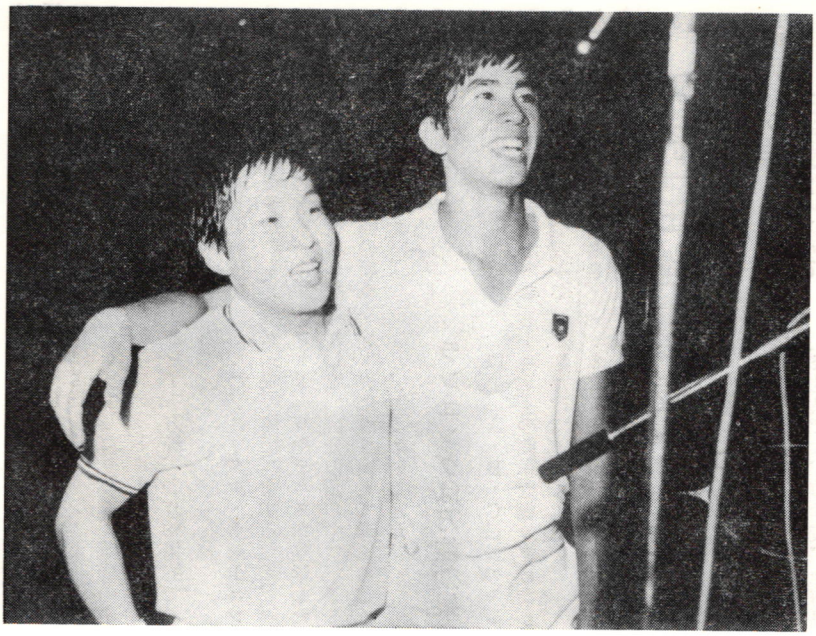
そんなときは、運動をやめるより、軽度の練習を持続することが大切だ。運動能力の向上とは筋力・速度・持久性を向上させることである。

だが、東北地方や北陸その他の地方にくらべ、欠けている点が多いので、今後とも努力していきたいと思う。

小島はなぜハルトノに勝てない？

日本がト杯の王座を手にするために

▲▲短期連載対談最終回　内藤安雄―小島一平▼▼



（前号では、スピードとはなにか、ということに関連して、小島選手のスマッシュが、フォームの点ですぐれている、という話に移った。最終回は、その小島のフォーム分析からスタートする）

タマをより早く感じさせる

内藤　小島がスマッシュするフォームを見てみますと、次のようなことがいえる。

すなわち、ふつうの選手は①腰がはいって②背がはいって③腕が入り④それから手首と、そういう連鎖運動がはっきりと読みとれます。

ところが、小島の場合、それらの動作が同時に行なわれる。つなり、モーション小さいのですね。

モーションが大きいと、相手に時間的余裕を感じさせてしまう。ところが、小島のように、ごく一瞬であると、スマッシュされたと同時に、タマが自分のコートにはいってきてしまう。

実際にはタマそのもののスピードが多少、遅くとも、相手に早いと感じさせてしまうことがあるものです。

そういう点が、小島の〝スピード〟の身上でもあるわけです。ただ、タマの早さということではなく、そのタマを、より早く相手に感じさせる。これは一流プレーヤーにとっては、とても大事なことです。

日常練習に高次元の要素を

――それでは、こんへんで話題を一歩進め、日本の男子が実際に世界へ飛び出し、世界を制するには、という点について、お話を願いたいのですが。

内藤　大体、いままでの話をひとつひとつバラしていけば、今後、日本の若い選手たちの指針が生まれてくると思うのですが、ここで整理させてもらうならば、

まず基礎体力の養成、それからフライトだとかストロークだとかいう基本技を、動きの中でマスターしていく。

より高次元な要求としては、予見力とか、フェイント・モーションとか、タマのやりとりの中で、いつか勝機への転換を、つねに見ながらゲームを進めていくという姿勢。

そういうことが、ふだんの練習の中に必要ではないかと、一番、感じます。

――小島君は、過去十六回（注、この対談後、カナダ、イン

ドネシアへ行ったので、計十八回）海外へ遠征し、それぞれの国で、選手の育成法を見てきたと思うけど、日本で「こんなのを取り入れたら」というようなハダで感じたものがあると思うんですが。

再考の要、トップ養成策

小島　欧州にかぎらず、外国のほとんどはクラブ組織です。したがって、コーチなどは普段はみられないが、大体そのクラブ内のトップ・プレーヤーにアドバイスを受けたりしているようです。

とくに、ヨーロッパでは、プレーヤーを束縛するなどということは考えられず、やる気のある選手が自主的にやっているようです。その中から強い選手が出てくるんですね。

個人尊重の風土だけに、選手も個性があるし、試合ものびのびやっています。

インドネシアにはインターナショナル・チームのようなものもあるので（注、「バドミントン界」第19号参照）毎日練習でき、コーチがつきっきりで、かなりきびしい面があります。

――インターナショナル方式については、どう考えますか。

小島　現状では外国へ行く選手は、いつも同じ顔ぶれで、その選手がダメになると、こんどは交代に新手が出かけ、若労して二、三年たって、やっとある程度の水準まで追いつく、そのころには、その選手はトシをくってしまっていて……ということのくり返しばかりやっている。これが日本の状態ですね。

要するにベテランと若手の力がうまくかみ合わない。ト杯のように一定レベルの選手を何人かそろえておくことが必要な試合のためには、ちょっと問題があるように思う。

――経験のあるトップ・プレーヤーから技術を吸収する場が少ない、また、海外勢にもまれて経験を積むチャンスも少い、ということですね。

そのひとつの解決策としてはナショナル・チームを編成するとか、それに近いものを作って若手とベテランを、どんどん交流させていくことが必要なわけですね。

〝財産〟を後進に伝えよう

内藤　ぼくも、そう思う。大体、ユ杯、ト杯があっても大会が終わると、選手は解散して個人の場に帰ってしまう。

つまり、解散と同時に、まず自分のことを考えるわけですね。だが解散したら、ふたたび代表に選ばれるために、自分だけ研磨を積むという、近視眼的なものの考え方ではダメです。

選手団は解散しても、前に選ばれたもの同志が、ふたたび、なにかを交流し合って、せっさたくましていく、そういう大きい視野を選手たちにも持ってもらいたいと思う。

また、そういう考えを持ってもらうためにも、協会でも、なんらかの方策を立てなくてはいけないと思います。

小島　要するに私などが、まだ元気でいる間に、その〝財産〟を次の若い人たちに伝えたい、ということです。

海外遠征にしても、できるだけ若い人たちにチャンスを与えてやってほしい。大学を出ると就職によっては、トップ級の選手生活を維持できない場合もあるから、数少い選手は、できるだけ有効に育てないと…。私も個人的協力は惜しみません。



少年少女編

〝あなたを名手にする百カ条〟のうち

「単純な動作の繰り返し」に耐えること

日本協会競技力向上委員長　伊藤基記

体力をつけ、技術を磨いてバドミントンの名手になってゆく道程は、坦々とした平道ではない。何回か苦汁にみちた困難が押し寄せてくることを覚悟しなければならない。

そのいばらの道を切り開いてゆく源動力はプレーヤー自身のものである。

その障害の一つに今回、私が特にとりあげた、基本練習における単純な運動の繰り返しがある。

ばからしいと思えばそれまで

――問題は自覚、同じストロークにも〇点から百点の差――

クリーヤー一つをとってみても、それには零点から百点までの差があって、やっとラケットに当ってとぶものから、いついかなる態勢からでも、相手コートの奥深く、エンド・ラインぎりぎりに押し返す力と技術の間に、幾十の段階がある。

その段階を踏み上ってゆく過程には、同じような動作を繰り返してゆく、単純さに耐える精神力が要求される。

一歩一歩、正確なストロークを築きあげ、焦点をしぼってゆく、秒刻み、ミリ刻みの歩みがある。

それには、寒暖計の水銀柱があがってゆくように、容易に読みとることのできない、つかみどころのない、手さぐり、足さぐりのプロセスが厳存する。

伸びていること、進んでいることが自覚されない過程では、往々にして、精神的、肉体的な飽和状態（行きづまり）が訪れる。

昨日も今日も、同じことを繰返すことになる。それをバカらしいと一擲（いってき）してしまえば道はとざされてしまう。

正確さ、力強さ、緩急自在であることについて、深さをまし、濃度を加えてゆくその充実をかみしめてゆく、心のゆとりが、その単純な繰り返しに耐える力である。

上手になろう、強くなろうとする意欲が強ければ強いほど、この道は深くけわしい。

それだけにそれを乗りこえる楽しさも又倍加される。（多少、自虐めくが単純さにたえる苦しさを、むしろ楽しみとする心があればそのプレーヤーは向上の道を歩いていると考えてよい。

大部分の負けは不正確さによる、と私は断じている。バドミントンの場合、零点と百点は常に隣り合せである。

オンラインは百点であって、バウンダリーを少しでもこえれば零点におちる。百点の近くだから、せめて、五十点でもということはあり得ない。どんなにわずかでもアウトはアウトである。

従って、ストロークは常に、危険にみちて〝丁半〟がかけられている。ぎりぎりの正確さが要求される。それを満たすものは、あくことのない心をこめた繰返し以外にはない。

私は、一通り基本的ストロークを打ったかと思うと、すぐ、ゲームにとりかかる練習法をこの意味で歓迎しない。

試合のときは別として練習の折りには、どこかに、スポットライトを当てて、そのことをあるていど、踏みとどまって追求する、繰返しのドリルが必要である。

このような基本的ストロークの積み重ねが、緊迫したゲームのせり合いの中で、自信となってプレーヤーをささえることになる。

同じことを、何回と繰り返すことの中に、深さを求めず、バカらしい、遠廻りだと感ずるプレーヤーが、道をきわめた例はない。

誤解しないで欲しい。ただ機械のように繰り返しておればそれで上達するというのではない。そこに、到達目標を掲げて、近づいてゆくことの実感をふまえた、網のたぐり寄せの努力が大切であることを、忘れないようにと強調しているのである。

網の中に、体力と技術を集めて身につけるために、孤独なバドミントンのプレーヤーは、静かに闘志をひめながら、今日も技術体力獲得のための網を投げつづけてゆくのである。

中高校編

舞台裏から見た 大会必勝法四ヵ条

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

大会に参加するからには、だれしもが勝つことを目標にしてのぞむはずである。そのためには、いろいろと留意しなければならぬ点がたくさんある。

選手のコンディション作りは、その最たるものであるが、監督も選手も、そればかりに全力を傾注し、それ以外に大切な多くのことを忘れがちである。

一、食事時間の不規則になれよう

全国大会級の試合になると、力関係が大体似かよっているチームが多い。特に、上位になるにしたがって実力が伯仲してくる。

試合時間も当然の如く長くなり、タイム・テーブルが大きく崩れてしまうのは常識であり、休憩もほとんどなしで、次のゲームにはいることもしばしば。従って、食事の時間など十分には持てない。

大会が近づくと、食事時間が遅れるものと想定し、板チョコ一枚程度で次のゲームにはいれるなど、わざわざ食事の不規則になれる練習をしておこう。空腹のあまり、目まいを起したり、実力を出しきれずに目標達成寸前で敗退してしまうケースは非常に多い。

二、気候にうち勝とう

気候、会場などよく調べる

コンディションづくりだけでは不十分

すべてに事前チェックが肝要

バドミントンの競技会は、今や年中無休のフル・シーズンである。その季節によって、シャトルの速調が異なるし、晴雨によっても異なるものである。

真夏の大会では、わざわざ体育館を大会時と同様のむし暑さにして練習を行なったり、大会時にとまどわないようにしよう。「こんなに暑いとは思わなかった」と後悔をしている場面を、よく目撃することがある。

晴雨、寒暖により、シャトルのブレーンのみでなく、フロアーの状態も異なるものである。各々に応じたプレーなり、ウォーム・アップも当然、考えなければならなくなる。

大会の場所、時期等は相当早くから決定しているのだから、方法はいろいろあるはず。近府県なら、そこまでする必要もあるまいが、縦長の日本列島のこと、遠方への試合には万全を期す意味からも肝要であろう。海外遠征などの場合は特に研究調査しておかねばなるまい。

三、体育館を下検分しよう

本年はなにがなんでもベスト8以上、あるいはそれ以上の上位入賞を狙う場合、練習の成果を、よりよく発揮するためにも、体育館の下検分はしておきたいものである。

天井の高低、バック・バウンダリー・ラインの後のスペースの多少、フロアーが木かその他の材質かどうか？木ならば縦目か横目か、全体で何面取れるか、滑るかどうか？　光線の具合は？

それによって自分達が練習している環境と、どこがどう違うかチェックして、大会々場と同じ雰囲気を作るか、あるいは、それに類似した体育館を借りて練習をするとか、方法を考えよう。大会に来て初めて、滑りすぎたり、天井が低すぎて勝手が違い、実力が発揮出来ないなどもよくあるものである。

万全を期すならば、体育館の下検分は非常に大切であろう。どうしても遠方で行けないような場合は、やはり、友人達に連絡をとり、見取図なり写真なりを送けてもらうなど、方法を講ずればよかろう。

四、選手の伸び、相手監督のクセを知ろう

相手の一年間の伸び率の計算は度外視しやすいものである。「敵を知り、巳を知る」ことこそ試合に勝つ重要なポイントであろう。

どの大会においても目ぼしい選手は、各チームの監督や選手にマークされがちである。しかし「あの選手はうまみが出た」「大して伸びていない」など、単に見すごすだけでなく、あの選手の昨年は、あの程度であったが、今年は何センチ位の進歩があった。よって、来年は順調に行けば、何センチ位伸びてどの程度の選手になるだろうか？大体の予測は立つものである。

「相手校の監督のクセ等もよく知ることが必要である。監督により、色々とタイプの異った選手が育つものである。従って、目ぼしい選手の伸び、タイプを予想し、それを上回った選手を育てるべく、緻密な計算をして練習に励むことが大切である。（東大阪短大監督）

◇　◇
◇　◇

上級編

大切な補欠時代の心構え

塩崎睦子選手の巻

「歩」から「㊀」への努力を

元日本教職員連盟常任理事　三須徳次

塩崎睦子選手（日本女子体育大学二年生）は身長162センチ、体重52キロ、日本の女子プレーヤーとしては長身ですので、大型選手の人達に参考となります。

五カ月ぶりに塩崎選手のプレーを見たとき、わずかの間に一段と、たくましくなっているのに驚きました。これは高校の先輩（男子）のプレーを参考にしていたためらしく、自然と身についてカ強い感じを受けました。

短期間で素質を伸ばすことは、非常に困難なことです。レギュラーとして試合経験をつんだことが、プラスになったと思いますけれど、後述する新人戦優勝も原因です。そのうえに適切な指導を受けたこと、および本人の意欲が好結果として現われたしだいです。

皆さんも体験したと思いますが、初出場のいろいろな興奮状態……たとえば、ふだんクラブの人達とやっているゲームとは違ったムード……を思い出して下さい。

試合に出場するきっかけには、上級生になったので、自動的に正選手になれた場合とか、出場予定者が急に病気になり、代わりに起用されたとか、あるいは実力で出場できるようになれたなど、いろいろな条件があったはずです。

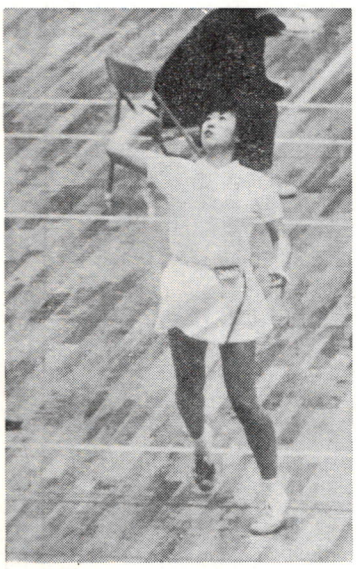
問題は補欠選手であったときの心構えと、正選手になってからの心構えしだいで、バドミントンは強くも弱くもなるということです。

団体戦で正選手がケガをしたりすると、補欠選手がいなければつぎの対戦で、ダブルスとも棄権せざるをえません。

補欠選手は、いつ出場しなければならなくなるか分らないので、考え方によっては、レギュラー以上に大変な役割をもっているわけです。

補欠時代には、いつでも出場できる心構えで、体調を整え準備し、出場できないと決まっても、常に次の試合に備え準備することが試合に出られるようになってから役立つものです。おそらく塩崎選手も同様な考えで練習を続けていたと思います。

さて、正選手であっても試合の反省、コーチの助言（技術以外も含む）を、得なければ進歩は望めません。つまり出場のきっかけはともかくとして、正選手になっただけで、自己満足していては技術的上達はありません。



どのように経験を生かし、さらに飛躍するかの心構えで、練習を積まなければならず、将棋に例をとれば「歩」は歩で終ってしまいます。

この歩が〝成る〟と「金」と同じ活躍をしてくれます。私の述べたいことは「歩」は前にしか進めませんが「㊀」に成りますと前後・左右・斜め前にも進むことができるので動きに巾が出てくるということです。

現在、プレーヤーでいま一歩と思われる選手が多いのですから、もう少し堀り下げて「歩」から「㊀」になり、その「㊀」が〝王手〟（チャンピオン）に近ずく距離に接近してもらいたいと、念願しております。

前置きが長くなり恐縮です。彼女はついこの間まで、高校生らしい試合をやっておりましたので、早く大学生とか、社会人的なプレーを身につけると、もっと強くなると見ていたのですが、意外と早く試合運びが上達してきました。

総合体育大会では、団体・ダブルスともにベスト8位でしたが、大学進学後の新人戦では、一年生ながらダブルス、シングルスに優勝しております。新人戦の優勝が刺激となって、よけいに意欲的になり、順調に伸びております。

では、高校時代のトレーニングや、練習時間について本人に聞いてみましょう。

バドミントンは高岡商業高校に入学後、クラスメートに誘われてからで、中学時代は陸上競技をやっていたとのことです。

基礎体力の養成において、陸上競技の選手であったことが非常にバドミントンにプラスになっております。

長距離の方が得意とのことですが、ダッシュも抜群です。高校時代の練習量は毎日3時間あり、クラブのトレーニングはランニング・腹筋・兎とびで鍛え、自分ではランニングを特別にしていました。（続）

≪表紙≫ 杉山修（日本電装）



この写真を撮影したときは、まだイキのいい学生だった。注目されたのは、昨年の全日本学生で、当時No.1といわれた本間（現・トヨタ自工）を破り、優勝したときだった。

このときダブルスは牧野光男（現・日大主将）と組んでベスト4。ほかに関東学生で複1位単4位というのが主な戦績で、どちらかというと、地味な存在だったが、今年二月の社会人×学生対抗に登場したときは、そのにこやかな性格が受けて、中高校生にモテモテだった。

心やさしく、おとなしそうな青年。そのイメージは碁と読書が趣味ということからもわかる。

愛知県刈谷市の日本電装に入社「一年間は社業に専念、国体、全日本にも出ない。その後は楽しくやれる社内クラブの育成につとめてみたい」という。

岐阜工高出、日大主将をつとめた。173㌢、61㌔、24歳。

愛読者の皆さんへお願い

一般愛読者の皆さん、各都道府県協会、実業団、教職員、学連ほか関係方面の会員、指導者など、あらゆるバドミントン関係各位の投稿をお待ちしています。

本誌も創刊以来、三年目にはいりますが、小数のスタッフと協力者だけでは、本当の意味での〝総合バドミントン雑誌〟をつくり上げていくことは、むずかしいと思います。

「これを見れば、なんでも載っている」というかたちに育て上げるために、皆さま方の絶大なご協力をお願いします。

皆さんご自身では、ごく当たり前と思っている、ちょっとしたお話でも、他の人には初めてのすばらしい話題という場合もあります。意見、主張も歓迎いたします。

編集室

○…〝ドル・ショック〟の影響ではないが郵送料の値上げが一番大きな原因で、本誌もついに値上げに踏み切らざるを得なくなった。

残念なことだが、ご了解お願いしたい。すでに何度か言明している通り、本誌も競技会や記録重点主義を排し、できるだけ、興味があって、タメになる話題中心に方向を転換しつつありある次号には、さらにおもしろい記事が登場するはず。ご期待を乞うしだい

○…目下、世界をゆるがす中国問題、日本協会の日中交流部会では結論が出た。これも次号へ。

なお、高校総体の記事に協力下さった地元関係筋に、誌上から厚くお礼申しあげます。

沖縄援助運動は今後も続けます。日本協会でも常務理事会が満場一致「常務理事が援助に協力する」むね、決定した。読者の皆さんも、よろしく。

【バドミントン界】第25号
昭和46年8月25日 印刷
昭和46年9月1日 発行
編集兼発行人 川端昇市
発行所 東京都渋谷区神南一の一の一 岸記念体育会館内 日本バドミントン協会
電話 四六七・三一一一（内線）二五一 四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所 東京都中央区八丁堀二の八の二 有限会社 和田印刷所
定価 一部 百円

日本バドミントン協会検定合格ネット・メーカー

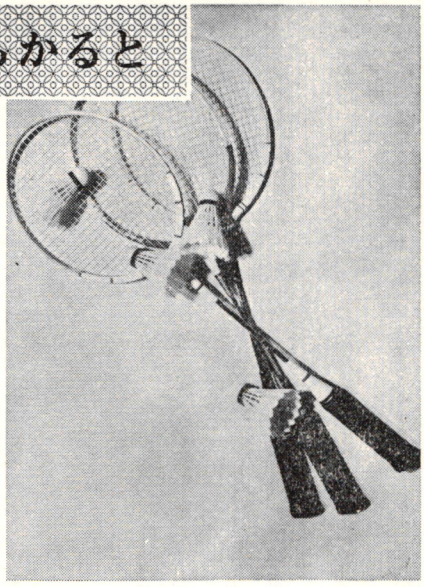
松本製網株式会社	大阪府八尾市福万寺町4-72	TEL 0729（2）3217
	◎ 20／12 倉敷ビニロン（MATVMOTO）	
鐘屋産業株式会社	東京都文京区本郷3-17-2	TEL 03（811）3773
	◎ ナイロン A級	◎ 綿 B級
（株）寺西喜商店	大阪府八尾市福万寺町4-31	TEL 0729（2）3210
	◎ バドミントン・ネット C検定	
（株）ジイティヤング	本社 大阪市南区東平野町2-25	
	支社 東京都墨田区本所1-36-2	TEL 03（623）7155
	◎ 20番手 12本クレモナビニロンテトロン引紐	
	◎ 20番手 12本綿 テトロン引紐	
	◎ 20番手 12本綿 クレモナロープ引紐	
ミセキセット製作所	埼玉県北葛飾郡幸手町中1-7-4	TEL 04804（2）0379
	◎ ミセキ VA ◎ ミセキ A	

連載（完）

バドミントン用具の話題あらかると

〈ネットとポストの巻〉

日本協会理事
前用具委員長　松本弘充



▲▶▶ 検定合格品を使おう ◀◀▼

…セットも正確に、規定に従って…

三、ネットについて

大会運営規程第五十条では、年次大会には当該年度合格ネットを使用することになっており、競技規則第三条にはネットの規格が示されています。

協会は昭和三十七年から毎年ネットの検定を実施しています。この検定が実施される以前は第三条の規格にあったネットが少なく、プレーヤーを困らせていましたが、現在は、ほとんど規格通りのネットが使用されるようになりました。

しかし地方には規格に合わないネットもあるようです。ネットは規格通りのものでプレーするのがほんとうのバドミントンですから検定合格のネットを使用するようにしたいものです。

（一）ネットの規格

ネットの規格は競技規則第三条に示されているように

1・ポストに張ったとき丈（タケ）が76センチあること。

2・網目が1・5～2・センチでシャトルが抜けないこと。

3・上縁のテープは白色で幅が7・5センチのものを二つ折りにする。

4・網の色が茶褐色であること。

5・白テープの中にヒモか索条を通すこと。

6・張るときはポストの所で床から1・55メートル、中央で1・524メートルになること。

以上のようなことが規定されています。協会はこの規格に合ったものを検定合格ネットとしています。

（二）ネットを張る時の注意

ネットを張った時、ポストとネットの間に三日月形の空間があいているのをよく見うけますが、これはいけません。

検定合格ネットは、すき間をなくすための紐がついていますが、すき間ができないようにしましょう。

また白テープの中の紐か索条はネットの幅（6・1メートル弱）全部をつきぬけていなければならない。

そして、ネットのテープや網目に固着せず、ネットにかかわりなく自由に動かせることが必要です。

四、ポストについて

ポストは規則第二条に示されています。ポールといっても間違いではありませんがポストとよぶようにしましょう。

1・床から1・55センチ

2・規格のネットをしっかりと張れる丈夫さであること

3・側方の境界線上にたてる

4・ポストの太さは規定されていませんが、ラインの幅（4・0センチ）と同じであると都合がよい。しかし少々、細目のものがあるようです。この場合はポストはラインの外側に合わせて立てるべきです。

ポストを立てるのに大切なことは、真っ直ぐにしっかりと立てることです。

新しいうちは真っ直ぐ立っていますが、何年かたつうちに、内側の方へだんだん曲ってくる場合がありますので、注意が必要です。

またポストは床上1・55メートルでネットの高さも、ポストのところで1・55メートルですから、ポストにはネットの紐を受ける切り込みの深さは、ネットの紐と一致していると都合がよいわけです。

ポストをサイド・ラインの上に立てられないときは、ラインの外側に立てるようにします。その場合は、ネットの下を通過するサイド・ラインの位置を示すために、幅4・0センチ以上の薄いストリップかポストを、ネットの紐に垂直に立て、サイド・ラインに固定します。

以上、ラケット、シャトル、ネット、ポスト等おもな用具についてのべてきましたが、用具の話はこれで終わります。機会がありましたなら、その他の用具についてもお話したいと考えています。長い間、愛読を感謝いたします。

本誌購読料改訂のお知らせ

十一月一日から
――年間契約　千五百円に――

本誌「バドミントン界」は日本における唯一の総合バドミントン月刊誌として、創刊以来、広く全国愛好者各位のご支持のもとに、号を追って発展してまいりました。この間、各位の愛情あふれる助言や要望にもとずいて、本誌の内容も徐々に改善され、面白くて、しかも役に立つ雑誌としての道を前進しております。

しかし、内容の改善、諸物価高騰は、結果として、製作費のコスト高となり、一方では昭和四十六年七月一日以降の郵便料金改正（郵送料値上げ）のため、さらに経費増を招くことにもなりました。

これまで本誌の郵送料は「第三種郵便物」として、一部（重量百グラムまで）六円であったため、年間購読者各位に対しては、サービスのため、送料を本誌側の負担としてまいりました。しかし、今回、これが二十円に値上げされたため、今後も郵送料を負担し続けることは、事実上、困難な事態に立ち至りました。

このため、やむを得ず、本誌は十一月一日以降、次のように購読料を値上げさせていただくことになりました。ご承引の上、今後いっそうのご支援、ご愛読をたまわりますよう、お願い申し上ずます。

1・一部売りの場合

試代定価　百三十円
送　料　二　十　円
千　五　百　円

2・年間契約（一部）の場合

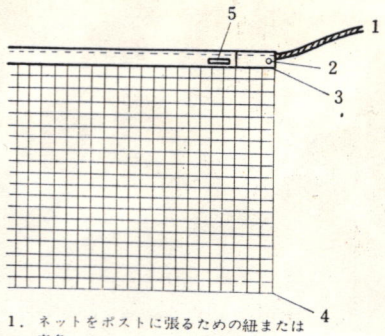
誌代・送料ともで

3・実施期日

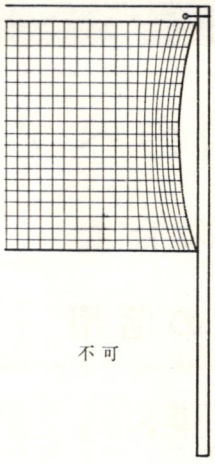
十一月一日以降の年間契約申し込み、または第26号以降の購読

（注）現在、契約中の場合で十月三十一日までに期限が切れて再契約する場合、または、十月三十日までに新しく契約する場合（いずれも同日までの消印有効）は、現行料金になります。

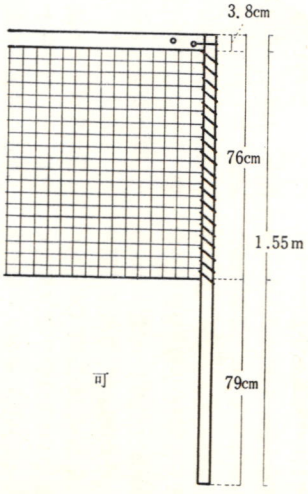
日本バドミントン協会
出版局バドミントン界
編　集　部



1．ネットをポストに張るための紐または索条
2．ネットのテープの末端をポストに引きつけるための細紐
3．ネットの網目の末端をポストに密着させるための細紐
4．ネットの下縁をポストのところで床上79cmに規正するための細紐
5．検定合格証書



不可



可



ビデオ・コーダーで自分のプレーを反省

二つ目のペア

の第二次合宿

コーダーの活用

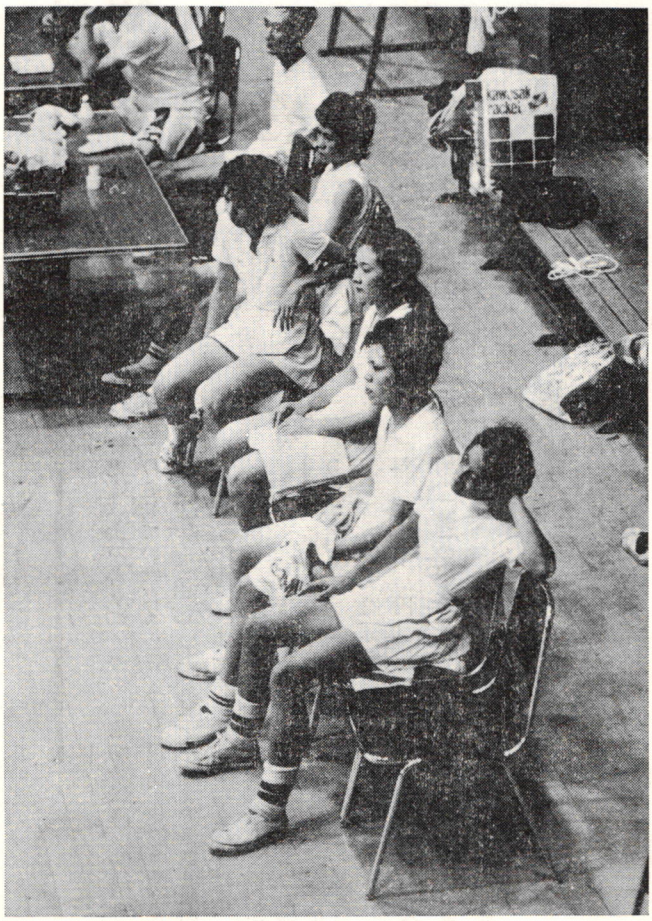
第六回ユーバー杯（世界女子選手権）の第二次強化合宿が、九月六日から十三日まで、埼玉県上尾市の東邦レース体育館で行なわれた。

第一次合宿は、さる七月二十五日、一泊だけで行なわれ、候補選手団は体力テスト、スポーツ・テストを受けた。この結果については、近く、別途、本誌を通じてお知らせする。

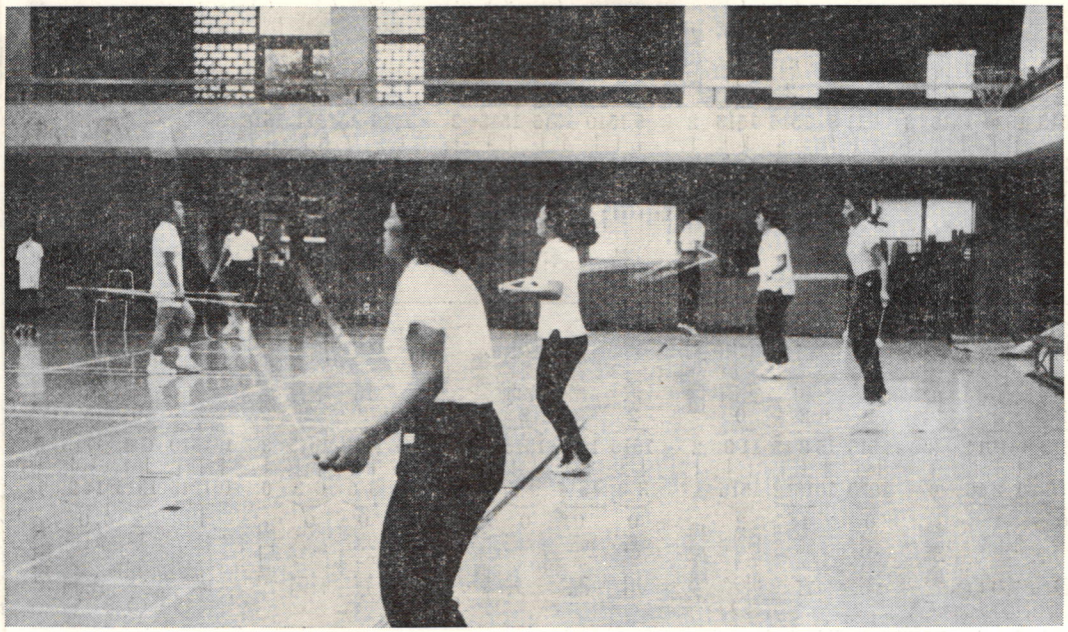
二次合宿には、まだ足の負傷が回復しない竹中選手（ヨネヤマ）が欠場したが、毛利監督、堺コーチ、山本マネジャーの三役のほか、高木（弘文堂）湯木（河崎）相沢（ヨネヤマ）高坂（青学大）柴山・高崎・石崎（東大阪短大）練習要員として、大場（東大阪短大）堀川・陣内（日体大）の各選手、計十三人が参加した。

合宿では、ビデオ・コーダーをフルに活用して、選手全員のプレーを撮影、再生して一人ひとりの技術上の長所、問題点を研究し合った。

これによって、選手自身もこ



コードサイド、ライバルのプレーを見つめる目もきびしい



練習の最後はナワとび、九百回も続く選手がいる。

焦点はダブルス

熱こもるユ杯

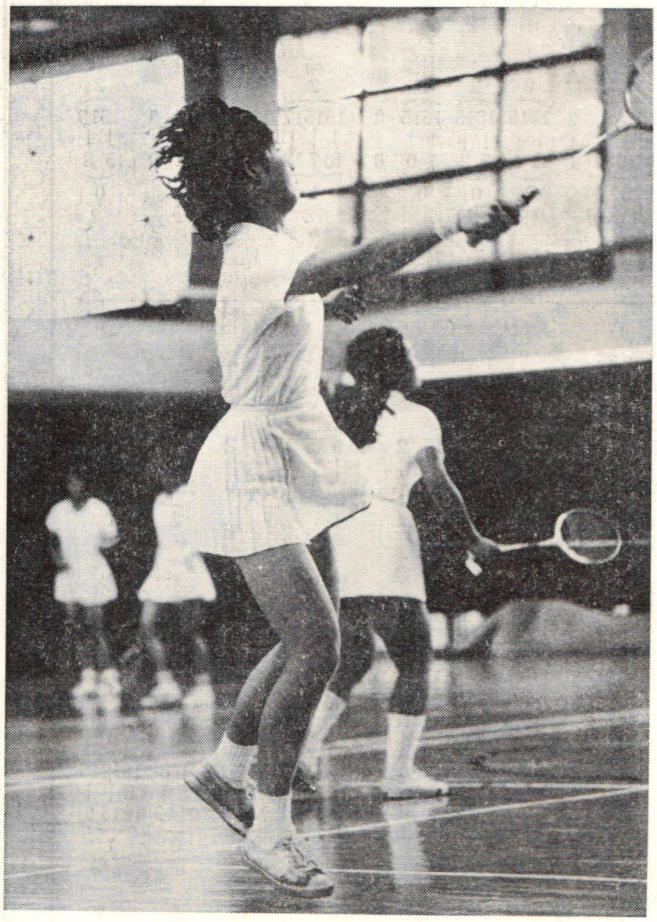
効果着々、ビデオ

れまで気ずかなかった、さまざまな点が認識でき、非常に今後に参考になった。

プレーでは、ダブルスに重点がおかれ、監督以下の男性スタッフも順次、選手たちの相手となってラケットを振った。高木、湯木の両ベテランでつくったペアは、さすがに抜きんでた力を示しているが、コーチング・スタッフにとって、目下の悩みは、二組めのダブルス。竹中選手がいつカムバックできるか、確定できぬため、相沢・高坂というコンビを組んで、練習を始めている。

毛利監督は「焦点はダブルスのペアをどうするかだが、その前に、相沢が高木・湯木のレベルに追いつくこと、高坂以下が相沢の線までアップすることも基本的に大事な問題」と語っている。

トレーニングの面は主として日常の選手の活動を重視しているが、コート内での準備運動、ナワとび等からは高木と湯木のすばらしさが目立っていた。



運命を背負う？　相沢・高坂のペア

◆第一回全国中学生選手権大会

（7月26～28日、東京体育館）

【男子】

▼一回戦

香川県 3－0 熊本県
- ○別枝 2 (15 18 15) 0 本若宮
- ○別枝 2 (18 15 9) 0 本若宮

三重県 3－0 群馬県
- ○中野 2 (15 15 12) 0 大沢部
- ○岡村 2 (15 15 12) 0 浦部
- ○小山 2 (15 15 15) 0 高木
- ○渡辺 2 (15 15 14) 0 山口

富山県 2－1 東京B
- ○加納口 2 (15 15 8) 0 熊坂田中
- ○谷口 2 (15 15 8) 0 熊坂田中
- ○高瀬 2 (15 15 9) 0 原田
- ○杉森 0 (11 8 15) 2 高橋○

宮城県 2－1 岡山県
- ○菊地 2 (15 12 12) 0 角村田田
- ○沼倉 2 (15 12 12) 0 角村田田
- ○今野 2 (15 8 10) 0 橋本
- ○岩渕 1 (9 15 10 11 15) 2 剣持○

長崎県 2－1 大阪府
- ○山藤田 2 (17 15 14 9) 0 原一ノ瀬主
- 藤田 0 (0 1 15) 2 平井○

京都府 3－0 山口県
- ○森重 2 (15 15 10 12 15) 1 松本
- ○橋本村 2 (15 15 3) 0 宮八田石

福井県 3－0 栃木県
- ○坂口片 2 (15 15 6) 0 桜鯨井
- ○長谷川 2 (18 17 14) 0 猪瀬
- ○古沢 2 (15 15 4) 0 石川
- ○富永 2 (15 15 11) 0 山本
- ○飯田 2 (15 15 6) 0 水戸
- ○木本村 2 (15 15 3) 0 宮八田石

北海道 2－1 兵庫県
- ○川原田本吉 0 (11 9 15 15) 2 向加井治○
- ○清和 2 (15 8 15 15 12) 1 住吉
- ○高橋 2 (15 15 10) 0 宗岡
- ○吉川岡 2 (15 15 14 16) 1 溝口山本
- ○村田 2 (15 15 6) 0 染谷

奈良県 3－0 埼玉県

▼二回戦

香川県 2－1 神奈川県
- ○別枝 2 (15 18 11) 0 昼長島間

愛知県 棄権 山形県

滋賀県 3－0 岐阜県
- ○広瀬 2 (15 15 7) 0 足立
- ○西村 2 (15 15 7) 0 尾藤
- ○平尾野 2 (15 15 7) 0 河中合川

東京A 2－1 鳥取県
- ○横山 2 (15 15 10 1) 0 木村
- ○成田 2 (15 15 6 12) 0 安田
- ○小室 1 (16 15 7 18 10 15) 2 井永田井○
- ○田中 2 (15 15 4) 0 林
- ○湊 2 (15 15 8 2) 0 中島

新潟県 3－0 茨城県
- ○小池山 2 (15 15 10) 0 横浜四ノ宮
- ○明崎 2 (15 15 17 5 7 18) 1 佐々木
- ○藤本 2 (15 15 4 9) 0 菊地
- ○福田永 2 (15 15 11) 0 小阿沢部
- ○塚本 2 (15 15 8) 0 金子

徳島県 3－0 岩手県

- ○大前 2 (18 15 10 13 8 15) 1 小林
- ○加納口 2 (15 15 7 8) 0 菊沼地倉
- 秋山 0 (6 5 15 15) 2 佐々木○
- ○高瀬 2 (15 5 15 12 15 9) 1 今野
- ○山藤田 2 (15 15 11 6) 0 岡中村野
- 藤田 0 (9 10 15 15) 2 渡辺○
- ○森重 2 (15 15 4 0) 0 小山
- ○坂口片 2 (15 15 7 10) 0 鍛飯治田
- ○古沢 2 (15 15 10 10) 0 木村
- ○川原田本吉 2 (15 15 3 4) 0 柄鶴田野
- ○清和 2 (15 15 10 4) 0 牧
- ○西村 2 (15 15 10) 0 葛西
- ○平尾野 2 (15 15 10 1) 0 広相島馬
- 広瀬 0 (6 1 15 15) 2 玉川○

富山県 2－0 宮城県

長崎県 2－1 三重県

福井県 2－0 京都府

北海道 2－0 愛知県

滋賀県 2－1 青森県

奈良県 2－1 徳島県

- ○吉川福 2 (15 12 15 12 15 5) 1 藤田永
- ○堀内 2 (15 15 13 5 3 18) 1 明崎
- 村田 0 (4 6 15 15) 0 藤本○
- ○小池山 2 (18 15 16 15 4 18) 1 川阿上部
- ○湊 2 (15 15 8 6) 0 鷲尾
- ○谷口納 2 (15 15 5 5) 0 別枝
- ○高瀬 2 (15 11 17 8 15 14) 0 秋山
- ○吉川岡 2 (15 15 4 8) 0 本川原田吉
- ○村田 2 (15 15 7 3) 0 清和
- 西坂口片 1 (6 15 12 15 11 15) 2 山藤沢田○
- ○古沢 2 (15 15 9 8) 0 藤田
- ○長谷川 2 (15 15 8 11 3 15) 1 森重
- 平小尾野 0 (10 10 15 16) 2 小山池○

富山県 2－0 香川県

奈良県 2－0 北海道

福井県 2－1 長崎県

滋賀県 2－1 新潟県

▼三回戦

新潟県 2－0 東京A

【女子】

▼一回戦

岡山県 3－0 東京B

○原田	2	1中村
	11 9 11	
	5 11 9	
○国藤定久	2	1徳岡野
	15 15 7	
	3 5 15	

滋賀県 2－1 福井県

○広瀬	2	1古沢
	15 13 15	
	12 15 4	
○西村	2	1長谷川
	15 8 15	
	8 15 7	
小平尾	0	2西坂口○
	5 4	
	15 15	

▼決勝

滋賀県 2－0 奈良県

○長谷川	2	1高瀬
	15 15 10	
	9 5 15	
○古沢	2	1加藤
	15 18 14	
	11 14 17	
○西村	2	0村田
	15	
	8 8	
○平尾	2	0吉川
	15	
	8 6	
○広瀬	2	0田中
	15	
	8 1	
○西村	2	1湊
	15 15 14	
	8 8 18	

▼準決勝

福井県 2－0 富山県

○新戸川	1	2高島野○
	9 15 15	
	15 18 10	
○水口	0	2北嶋○
	1 8	
	11 11	
○奥本	2	1中里
	11 7 11	
	6 11 8	
○北野	2	0竹森西
	15 15	
	9 9	
○山本	2	0安宅
	11 11	
	3 0	
○瀬野	2	0島田
	11 11	
	3 3	
○秋本	2	0中野
	15 15	
	2 5	
○三浦	2	0吉村
	11 11	
	1 5	
○金杉	2	0沢村
	11 11	
	4 6	
○新夏垣	0	2長谷川○
	16 9	
	18 15	
○加藤	2	0佐伯
	11 11	
	1 0	
○牛田	2	0吉田
	11 11	
	5 4	
○桑名	2	0岩畑野
	15 15	
	0 3	
○広瀬	2	0植草
	11 11	
	7 4	

鳥取県 2－1 三重県

神奈川県 2－1 京都府

大阪府 3－0 徳島県

香川県 3－0 熊本県

兵庫県 2－1 福井県

高知県 3－0 群馬県

○沖野	2	0大塚
	11 11	
	0 2	
○長井	2	0小板
	11 11	
	2 6	
○安本	2	0武鈴木
	15 15	
	5 6	
○山岸	2	0庄司
	11 11	
	2 4	
○向	2	0遠藤
	11 12	
	5 9	
○白飛江田	2	1鈴木友
	15 15 13	
	6 9 18	
○岩井	2	0磯山
	11 11	
	2 8	
坂倉	1	2浜野○
	7 11 9	
	11 7 11	
○川木中村	2	1谷野島原
	15 15 4	
	5 8 15	
○門脇	2	0牧野
	11 11	
	4 3	
○今田	2	0阿部
	11 11	
	2 0	
○神永部田	2	0岡竹木
	15 15	
	0 2	
○佐藤	2	0北出
	11 11	
	3 3	
○江原	2	1川崎
	12 11 10	
	11 4 12	

奈良県 2－1 茨城県

山形県 3－0 千葉県

富山県 3－0 宮城県

石川県 2－1 栃木県

○沖本野	1	2黒川○
	10 15 7	
	15 7 15	
○瓦	2	0上野
	11 12	
	8 10	
○山本	2	1青山
	11 11 8	
	8 3 11	
○松本	2	0小原山田
	15 15	
	4 8	
○笹川	2	0菅原
	11 11	
	1 2	
○松井	2	0千葉
	11 11	
	5 3	
○小原	1	0中島崎
	15 18	
	9 15	
水戸部	1	2古賀○
	16 11 4	
	11 7 11	
○馬場	2	1角野
	11 11 4	
	5 7 11	
○落前田	2	0貝磯瀬田
	15 15	
	6 10	
池田	1	2北村○
	7 5 12	
	11 11 11	
○道端	2	0山中
	11 11	
	5 2	
○三佐浦	2	0町服田部
	15 17	
	7 14	

東京A 3－0 岩手県

北海道 2－1 長崎県

新潟県 2－1 滋賀県

埼玉県 2－1 愛知県

▼二回戦

岡山県 3－0 岐阜県

○松沢	1	2広瀬○
	6 11 7	
	11 8 11	
○増田	2	0藤沢
	11 11	
	6 2	
○国藤貞	2	0高橋藤
	15 15	
	6 11	
○原田	2	0浅野
	11 11	
	0 0	
○広瀬	2	0石田
	11 11	
	0 3	
○桑名	2	0新夏垣原
	15 15	
	3 4	
○牛田	2	0金杉
	11 11	
	6 2	
○秋本	2	0水中浜
	15 15	
	2 5	
○瀬野	2	0奥本
	11 11	
	2 1	
神永部田	0	2上新野沢○
	11 13	
	15 15	
○白飛江田	2	0川木 中村
	15 15	
	5 6	
○門脇	2	0佐藤
	11 11	
	8 4	
○今田	2	1江原
	11 11 2	
	7 8 11	
○向	2	1岩井
	11 11 7	
	9 5 11	

香川県 2－0 神奈川県

大阪府 2－0 鳥取県

山形県 2－1 兵庫県

富山県 2－0 奈良県

高知県 2－1 石川県

○小中 2(1818－1613)0 金川端子
安本

長井 0(02－1111)2 山本○

○沖野 2(1112 9－1011)1 瓦

東京A 2－0 北海道

○田村 2(1818－1316)0 原小竹
松本

○笹川 2(1111－25)0 水戸部

新潟県 2－0 埼玉県

○藤田 2(1515－109)0 増田
落本

○池田 2(1111－00)0 野口

▼三回戦

大阪府 2－0 山形県

○植野 2(1515－05)0 永田部
秋本

○瀬野 2(1111－04)0 今田

岡山県 2－1 香川県

藤原 0(66－1515)2 渡辺○
国貞

○広瀬 2(1111 9－312)1 加藤

原田 2(12 5－11 11－1)1 牛田

○飛田 2(1515－122)0 小中
白江

安本

富山県 2－0 高知県

○阪本 2(1515－25)0 森田
(関大)

(阪大)

◆第21回関西学生選手権（6月21～24日、大阪・東淀川体）

◆男子シングルス

▼準々決勝

○向 2(1111－67)0 長井

新潟県 2－0 東京A

○前田 2(1515－78)0 松本
落田

○池田 2(1112－810)0 笹川

▼準決勝

新潟県 2－0 富山県

○落田 2(151415－81713)1 白飛
前田江

○池田 2(1111－72)0 向

大阪府 2－0 岡山県

○植野 2(1518－714)0 国藤原
秋本定

○瀬野 2(1111 6－611)1 原田

▼決勝

大阪府 2－0 新潟県

○植野 2(1111－78)0 前田
秋本落

○瀬野 2(1111－30)0 道端

葛輪
(大経大)

2(1715－143)0 小田
(関学)

小林 2(1515 4－15 5 9)1 島田
(関大)

(甲南)

植田 2(1515－812)0 中島
(近大)

(関大)

▼準決勝

阪本 2(1515－580)0 葛輪

植田 2(1515－290)0 小林

▼三位決定

小林 2(1515－260)0 葛輪

▼決勝

植田 2(1515－670)0 阪本

◆男子ダブルス

▼準々決勝

植田・岩田
(近大)

2－0 山崎・田辺
(立命)

吉井・天津
井(同大)

2－0 小田・中村
(関学)

阪本・小林
(関大)

2－0 足立・菅原
(近大)

中村・宮本
(近大)

2－0 島田・伊与木
(甲南)

▼準決勝

植田 岩田 2(1515－44)0 吉井 天津井

阪本 小林 2(1515－57)0 中村 宮本

▼三位決定

吉井 天津井 2(1518－1213)0 宮本 中村

◆女子シングルス

▼準々決勝

植田 岩田 2(1515－81)0 小林 阪本

高崎
(東大阪)

2(1111－42)0 飯田
(親和)

石崎
(東大阪)

2(1111－33)0 桝田
(武庫川)

大場
(東大阪)

2(1111－33)0 本田
(大教大)

阪本
(東大阪)

2(1111－53)0 浅野
(親和)

▼準決勝

石崎 2(111111－3127)1 高崎

大場 2(1111－120)0 坂本

▼三位決定

高崎 2(1111－65)0 坂本

▼決勝

大場 2(1111 5－511)1 石崎

◆女子ダブルス

▼準々決勝

石崎・大場
(東大阪)

2－0 水島・山田
(樟蔭)

浅野・飯田
(親和)

2－1 桝田・酒徳
(武庫川)

村崎・西尾
(樟蔭)

2－0 本田・瀬川
(大教大)

高崎・坂本
(東大阪)

2－0 坂口・神原
(関学)

▼準決勝

石崎・大場 2－0 浅野・飯田

高崎・坂本 2－0 村崎・西尾

▼三位決定

浅野・飯田 2－0 西尾・村崎

▼決勝

石崎・大場 2－0 高崎・坂本

◆関西学生春季リーグ戦

◆男子

▼一部 ①近大②関大③関学④阪大⑤立命⑥同大

▼二部 ①甲南②京大③大経大④神戸商大⑤竜谷大⑥神戸大

▼三部 ①京織大②大市大③和大④京教大⑤滋賀大⑥大産大

▼四部 ①京産大②大府大③奈教大④大工大⑤京府大⑥桃山大

▼五部 ①姫工大②関大Ⅱ③仏大④阪南大⑤大外大

◆女子

▼一部 ①東大阪②大教大③樟蔭大④神大⑤武庫川⑥奈良教大

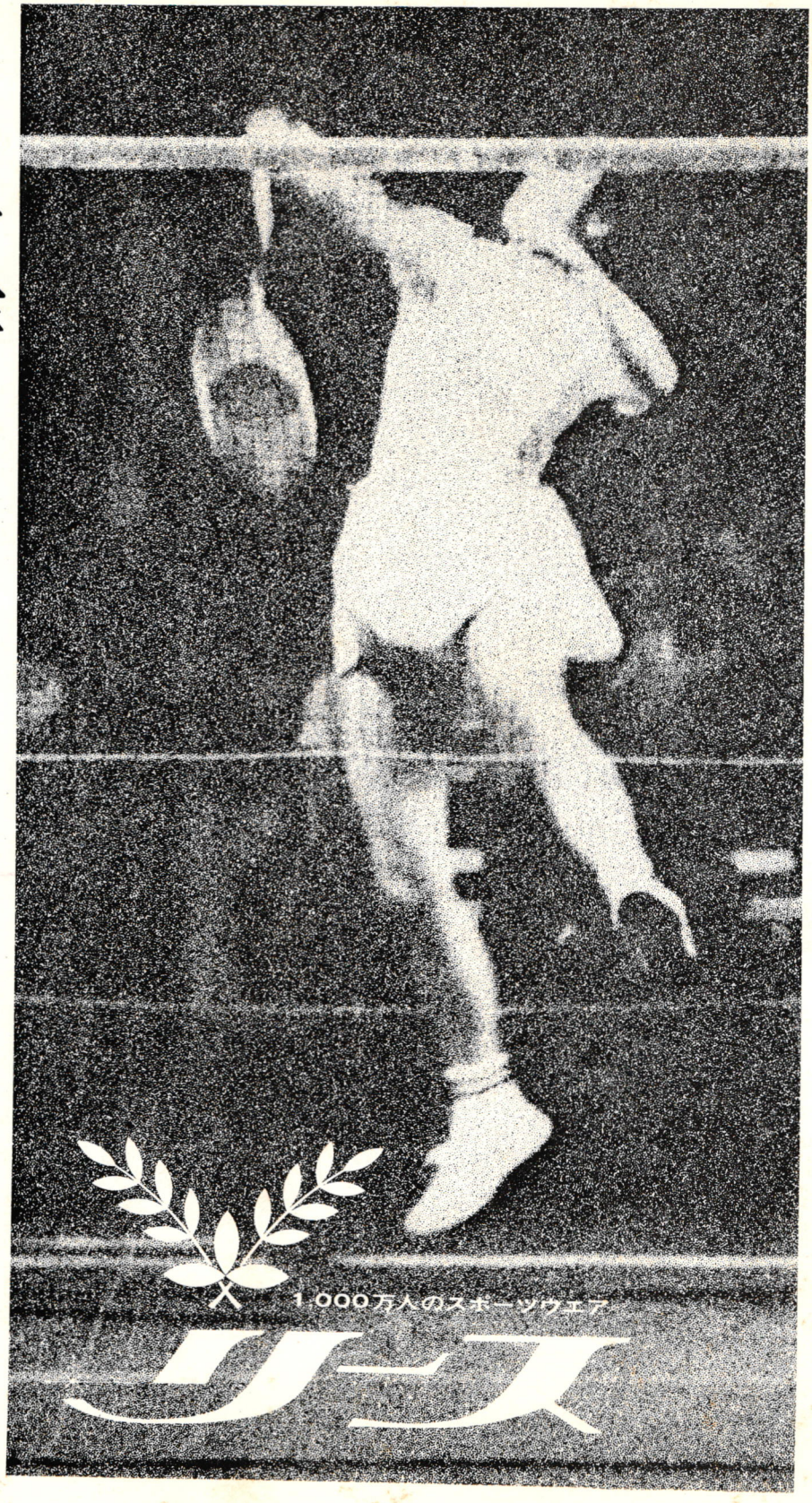
▼二部 ①親和②京女③大市大④京都⑤松蔭⑥同女

▼三部 ①関学②甲南③和大④神女⑤阪大⑥京府大

▼四部 ①大体大②滋賀③金蘭④四天王寺⑤奈女⑥山手⑦常磐会⑧薫英

RECORD

この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件をプレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO
河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-8840453

月刊「バドミントン界」第25号
昭和四十六年九月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所 東京都渋谷区神南一ノ一ノ一 日本バドミントン協会 定価百三十円

